

認定がん・生殖医療ナビゲーターの教育プログラムと啓発による心理支援強化を目指した研究：がん・生殖における遺伝カウンセラーの役割に関する実態調査

研究代表者 鈴木 直 聖マリアンナ医科大学産婦人科学 教授

提言（要約）

今回の調査では、対象者数318名に対し、1次アンケート回答率26.1%、2次アンケート回答率5.7%と低かった。認定遺伝カウンセラー®にとって、がん・生殖医療が、認定遺伝カウンセラー®がかかわる領域の業務であると認識されていない実態が背景にあることが推察され、がん・生殖医療は生殖年齢のがん治療前の患者に対応する全ての医療従事者が取り組むべき課題であることを啓発する必要性が今後あると考えられた。

研究分担者(50音順)

太田邦明（東京労災病院 産婦人科）

大瀬戸久美子（コニカミノルタプレジジョンメディシンジャパン、認定遺伝カウンセラー®）

片岡明美（がん研有明病院乳腺センター）

片桐由起子（東邦大学医療センター大森病院 産婦人科）

高江正道（聖マリアンナ医科大学産科婦人科）

玉置優子（東邦大学医療センター大森病院 産婦人科）

沼田早苗（久留米大学腫瘍センター、認定遺伝カウンセラー®）

吉本由希子（北野病院乳腺外科）

研究目的

近年のがん患者に対する手術療法、化学療法や放射線療法を中心とした集学的治療法の進歩に伴って、その治療成績はめざましく向上してきている。小児がん患者においても5年生存率の改善傾向が認められ、ある種の小児がんの5年生存率は80%にまで達している[1]。Meadowsは、2010年までに20～40歳代の570人に約1人が小児がんの長期生存者となると見込んでおり[2]、女性小児がん患者は寛解後の早発閉経など女性としてQOLの低下や妊孕能消失などの問題を抱えることとなる[3]。男性がん患者においても女性同様に、化学療法や放射線療法により造精機能への障害が起り、不妊の問題を抱えることとなる。

小児・AYA(Adolescent and Young Adult)世代のがん患者は、妊孕性喪失に対する多岐・長期に渡る不安と苦悩が強いと報告されている[4]。不確実性の中で不安と恐怖を有するがん患者は、将来の妊孕性や生殖機能温存に関してまで短期間に自己決定しなければならない大変困難な精神状態にある。がん治療の進歩に伴う現在、診断時から妊孕性に関する医療情報を適格に提供し、同時に精神的サポートも行う心理支援体制の構築が、がんサバイバーシップ向上の為に喫緊の課題となっている。

したがって、医師や看護師のみならず他職種連携による心理社会的サポートを提供できる

体制の構築が必要となる。

遺伝性腫瘍とは、単一の変異遺伝子を受け継ぐことにより生じうる腫瘍のことであり[5]、現在、がんのリスクを一般集団の何倍にも増大させる約100種類の遺伝子が知られている。遺伝性腫瘍の患者は、全がん患者の5%未満であるが、その遺伝学的基礎の同定は、家系構成員の臨牀的管理に極めて重要である。医師と共に遺伝カウンセリングを行う認定遺伝カウンセラー®は日本人類遺伝学会と日本遺伝カウンセリング学会により認定されており、現在25大学の修士課程に養成コースが設けられている。遺伝性腫瘍の特徴の一つに、散発性腫瘍に対し若年発症性が挙げられ、遺伝性腫瘍を扱う認定遺伝カウンセラー®は、小児・AYA世代に遺伝カウンセリングを行うことも多いと考えられる。

よって、本研究ではAYA世代に発症することが多い遺伝性腫瘍に関わる認定遺伝カウンセラー®(318名、2021年12月現在)に対し、がん・生殖因縁に関する知識等の実態調査を行い、がん・生殖因縁における役割を明らかにすることを目的とする。この結果より、次年度に計画されている遺伝カウンセラーとして最低限必要ながん・生殖因縁に関する知識取得の場の設定や、遺伝カウンセラーが提供できるがん・生殖因縁に関する情報の整理に結び付くことが予想される。

研究方法

研究対象者の認定遺伝カウンセラー®(318名、2021年12月現在)は、日本認定遺伝カウンセラー協会に全員所属している。日本認定遺伝カウンセラー協会の協力のもと、日本認定遺伝カウンセラー協会のメーリングリストを使用し、令和3年12月22日から令和4年2月7日にアンケートをweb上で実施した。アンケートの回答をもって研究協力を得たものとし、無記名で実施した。アンケートは1次アンケートと2次アンケートで構成され、1次アンケート回答者のうち、2次アンケートへの参加協力が得られた者に2次アンケートを送付した。アンケートは選択式(一部自由記載を含む)で行い、アンケート項目として、1次アンケートは、属性(年齢、性別、経験年数、専門領域、勤務先の種別)、がん・生殖因縁の経験の有無、妊孕性温存のカウンセリングに対する考え方、がん・生殖因縁での障壁要因についてであり、2次アンケートは、勤務先での取り組み、認定遺伝カウンセラーとしての取り組み、成功体験と失敗体験の抽出、課題に対する解決策、次年度への取り組みについてとした(アンケート内容については資料1参照)。なお、本研究は、東邦大学医療センター大森病院の倫理委員会での承認を得て実施された(承認番号:M21141)。

研究結果

1次アンケート回答数は83、2次アンケート回答数は18であった。(全てのアンケート集計結果は添付資料参照)

[1次アンケート]

属性の各最頻値は、年齢は30代(37.3%)、性別は女性(86.7%)、臨床従事年数は5~10年(38.6%)だった。専門領域(主に行っている業務内容)は腫瘍と回答した者が33人(39.8%)、ついで領域問わずと回答した者が30人(36.1%)だった。雇用されている勤務先機関(複数回答可)では、大学病院41件、公的病院32件だった。

がん・生殖医療について情報提供の対象となる方に遺伝性腫瘍についての話しを75.9%の認定遺伝カウンセラー®が施行したことがあったが、今まで認定遺伝カウンセラー®として従事している期間にがん・生殖医療について情報提供を行った事がある方は、36.1%、情報提供に陪席したことがある方は24.1%、前項いずれもないが38.6%だった(図1)。AYA世代(15-39歳)やCAYA世代(0-39歳)の遺伝性腫瘍に関わることはほとんどの認定遺伝カウンセラー®が経験していたが、がん・生殖医療の情報提供を自らが行った事がある方は4割弱だった。自らが実施するかどうかに関わらず、がんの診断を受けた生殖年齢の患者さんに対して、がん治療を開始する前に妊孕性温存に関する適切なカウンセリングの機会を提供すべきと考えるかについては、全ての回答した認定遺伝カウンセラー®が賛同し(図2)、その案内についても積極的に案内する方向で考えていた。7割の認定遺伝カウンセラー®が妊孕性温存について機会があれば、クライアントと話したいと考え、がん・生殖の分野でも認定遺伝カウンセラー®の働きは必要と回答者の8割が考えていた(図3)。

がん・生殖医療の分野で認定遺伝カウンセラー®の関わりの障壁となる要因について質問した。この質問項目は、Shimizuらの乳癌専門医への全国調査研究[6]に一部倣った。5段階のうち「非常にある」「ある」と回答した者の合計が多かった項目は、自分の妊孕性温存への知識やスキル不足と妊孕性温存についてのネットワークがあるかどうかであった。知識やスキル不足については80.7%が障壁となると回答し、ネットワークの有無については73.5%が障壁となると回答した。

[2次アンケート]

1次アンケート回答者のうち、2次アンケートへの参加協力が得られた者に2次アンケートを送付した。2次アンケートは2種類作成し、1次アンケート中の質問である「がん・生殖医療について情報提供を行った事があるかどうか」により、2種類のアンケートから選択し送付した。がん・生殖医療の情報提供の経験がある回答者が11名、がん・生殖医療の情報提供の経験がない回答者が7名の総計18名が回答した。

2次アンケート全体の回答数が少なかったため、経験の有無にかかわらず共通で行った質問の回答結果について述べる。現在の施設でのがん・生殖医療における取り組みについて十分であると思うかどうかについては、いいえが66.7%(n=12)であり、情報提供や取り組みで足りない項目は、凍結保存(卵子・精子・受精卵・卵巣組織)の方法(n=5)、拳児獲得率(n=5)、心理支援について(n=5)が多かった(図4-1)。これらの項目を行うために足りないものは、知識(n=5)、人員(n=5)との答えが多く(図4-2)、がん・生殖医療への取り組みも含め、遺伝医療に認定遺伝カウンセラー®がより積極的に関わるためにはどのような事が必要だと思うかについては、認定遺伝カウンセラー®が遺伝カウンセリングを行う場合の遺伝カウンセリング加算や管理料が取れるようになること(n=7)との回答が多かった。がん・生殖医療において認定遺伝カウンセラー®は情報提供以外にどのような事が行えると思うかについては、院内の調整(n=5)であり(図5-1)、それが行えるようになるための課題は認定遺伝カウンセラー®のがん・生殖の経験数の向上(n=6)が多かった(図5-2)。学びの機会ががん・生殖医療へプラスとなるかについては、全員が賛同し、学びの機会としては、webセミナーやe-learningと答えた(n=12)。がん・生殖医療の中で認定遺伝カウンセラー®の働きが学会等で定義されていると院内で動きやすいかについては、

61.1%が非常にそう思うやそう思うと回答した。

考察

回答した認定遺伝カウンセラー®の75%は、がん・生殖医療の対象となる患者に対し、遺伝性腫瘍についての遺伝カウンセリングを施行したことがあるが、がん・生殖医療についての情報提供を行ったことがある者はそのうちの約半数であり、認定遺伝カウンセラー®はがん・生殖医療の患者の診療に携わっているが、がん・生殖医療の情報提供は十分に行えていない現状が示唆された。

米国臨床腫瘍学会は2006年にがんの診断を受けた生殖年齢の全ての患者さんに対して、がん治療を開始する前に妊孕性温存に関する適切なカウンセリングの機会を提供すべきであると推奨している[7]。回答した全ての認定遺伝カウンセラー®は、生殖年齢の患者に対するがん治療前の妊孕性温存に関するカウンセリングを提供すべきと回答し、前述の推奨と一致していた。そして、がん・生殖医療のカウンセリングを案内する必要性や、今後妊孕性温存のカウンセリングを自身が行う意思、がん・生殖医療の分野でも認定遺伝カウンセラーの果たす役割について7-8割の回答者があると考えており、妊孕性温存についてのカウンセリングを認定遺伝カウンセラーが実施していくことへの関心が示された。

がん・生殖医療の分野で認定遺伝カウンセラー®の関わりの障壁となる要因では、自身のスキルや知識不足と妊孕性温存についてのネットワークの有無が挙げられ、今後、この2点の改善が必要と考えられた。

がん・生殖医療の経験の有無により、障壁ととらえる傾向が異なるかどうかをクロス集計したが、経験の有無により傾向は変わらず、また、自分の妊孕性温存への知識やスキル不足が障壁であるととらえていることが、妊孕性温存についてクライアントと話したいかどうかに影響を与えているかを検討したが、そのような傾向はなかった。

今回の調査の問題点としては、対象者数318名に対し、1次アンケート回答率26.1%、2次アンケート回答率5.7%と低いことが挙げられる。認定遺伝カウンセラー®にとって、がん・生殖医療が、認定遺伝カウンセラー®がかかわる領域の業務であると認識されていない実態が背景にあることが推察され、がん・生殖医療は生殖年齢のがん治療前の患者に対応する全ての医療従事者が取り組むべき課題であることを啓発する必要性が今後あると考えられた。

今回の調査をもとに、来年度以降につなげるべきこととして、認定遺伝カウンセラー®へwebセミナーやe-learningでの学びの機会を提供することが挙げられる。学びの内容としては、主に凍結保存(卵子・精子・受精卵・卵巣組織)の方法、それぞれの挙児獲得率、心理支援、がん・生殖医療のネットワークについてを含むことが望ましいと考えられた。がん・生殖医療の中で認定遺伝カウンセラー®の働きが学会等で定義されていると院内で動きやすいと考えている回答者もあり、日本がん・生殖医療学会として、認定遺伝カウンセラー®へ期待する働きの明確化も検討を要する。そして、認定遺伝カウンセラー®が遺伝カウンセリングを行う場合の遺伝カウンセリング加算や管理料が取れるようになることについては、今後検討すべき課題と考えられた。

参考文献

1. Gotta G, Capocaccia R, Coleman RP, et al. Childhood cancer survival in Europe and the United States. *Cancer*. 2002; 95: 1767-1772.
2. Meadows AT. Pediatric cancer survivors: past history and future challenges. *Curr Probl Cancer*. 2003; 27: 112-126.
3. Lutchman Singh L, Davies M, Chatterjee R. Fertility in female cancer survivors: pathophysiology, preservation and the role of ovarian reserve testing. *Human Reprod Update*. 2005; 11: 69-89.
4. Gorman JR, Malcarne VL, Roesch SC, Madlensky L, Pierce JP. Depressive symptoms among young breast cancer survivors: the importance of reproductive concerns. *Breast Cancer Res Treat*. 2010 Sep;123(2):477-85. doi: 10.1007/s10549-010-0768-4.
5. トンプソン&トンプソン 遺伝医学第2版 P362、監訳：福嶋義光
6. Chikako Shimizu, Hiroko Bando, Tomoyasu Kato, Yuri Mizota, Seiichiro Yamamoto, Yasuhiro Fujiwara. Physicians' knowledge, attitude, and behavior regarding fertility issues for young breast cancer patients: a national survey for breast care specialists. *Breast Cancer* (2013) 20:230–240、DOI 10.1007/s12282-011-0328-8
7. Lee SJ, Schover LR, Partridge AH, Patrizio P, Wallace WH, Hagerty K, et al. American Society of Clinical Oncology recommendations on fertility preservation in cancer patients. *J Clin Oncol*. 2006;24(29):17–2931.

図表

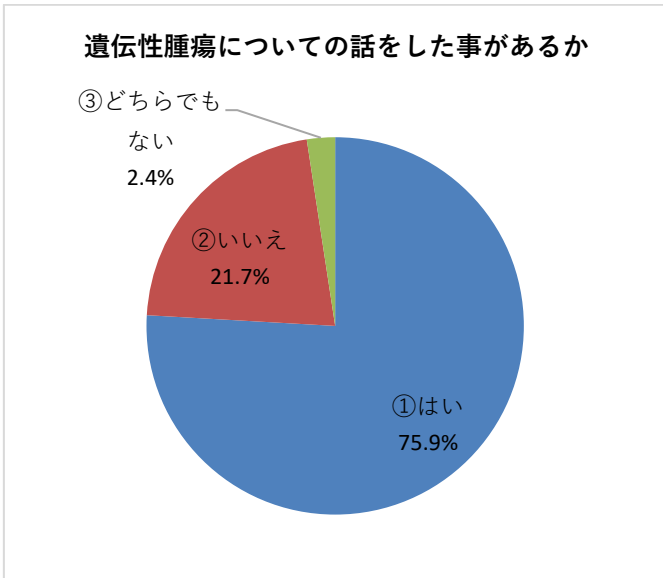


図 1-1. (質問 6)がん・生殖医療について情報提供の対象となる方に遺伝性腫瘍についてのお話をした事がありますか。

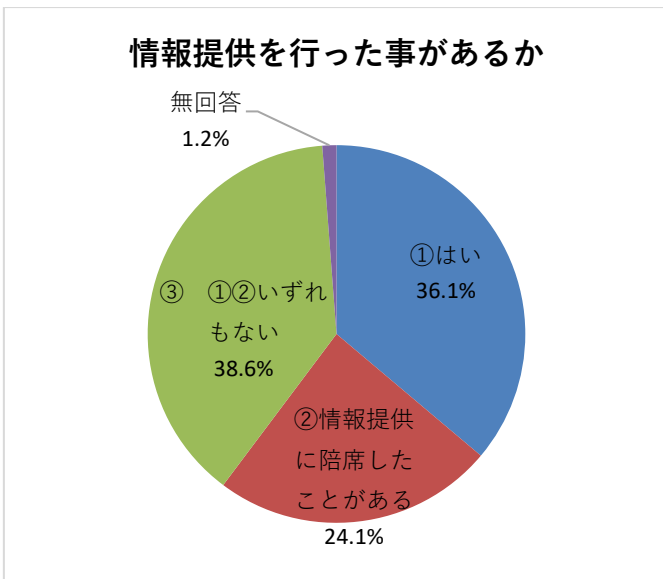


図 1-2. (質問 8) 今まで遺伝カウンセラーとして従事している期間にがん・生殖医療について情報提供を行った事がありますか。

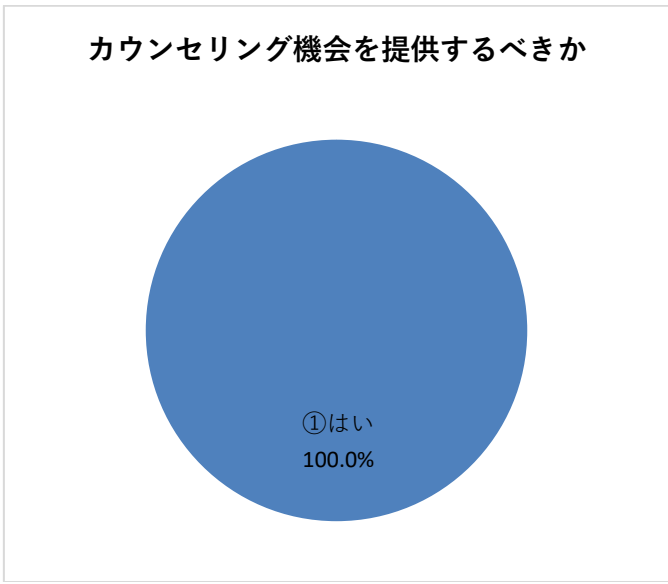


図 2. (質問 10) 自らが実施するかどうかに関わらず、がんの診断を受けた生殖年齢の患者さんに対して、がん治療を開始する前に妊孕性温存に関する適切なカウンセリングの機会を提供すべきと考えますか。

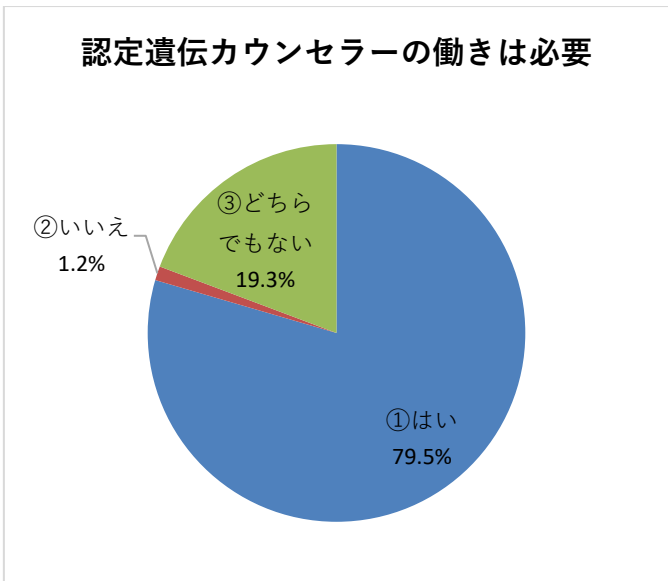


図 3. (質問 13) がん・生殖医療の分野で認定遺伝カウンセラーの働きは必要だと思いますか。

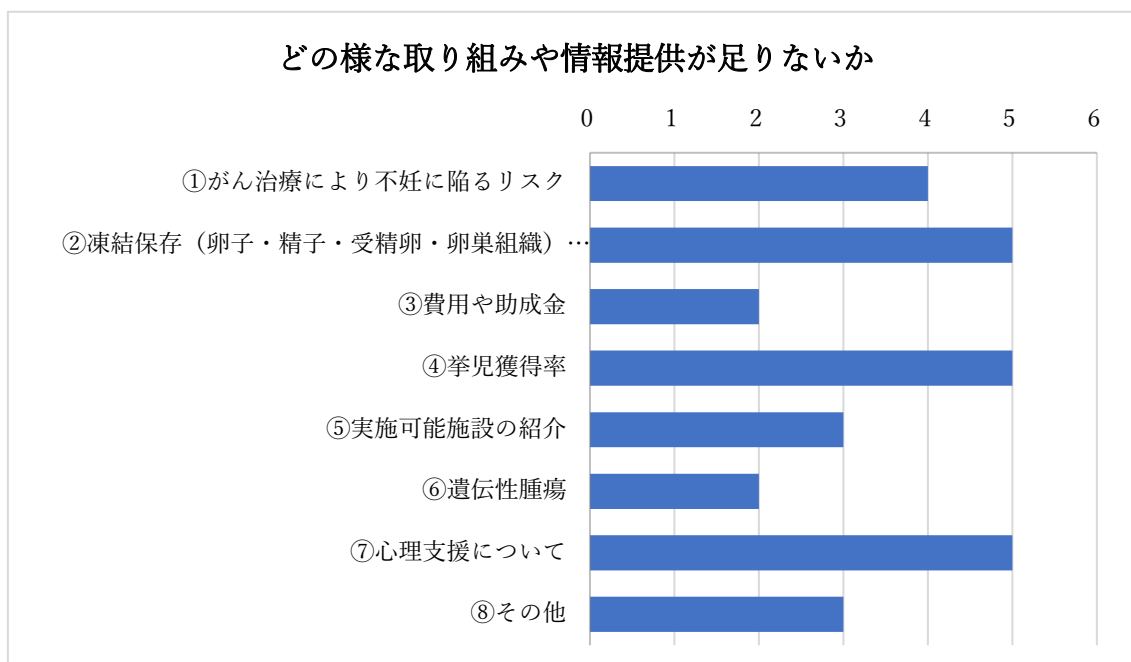


図 4-1. (質問 6) 現在の施設でどの様な取り組みや情報提供が足りないと考えますか。(複数回答可)

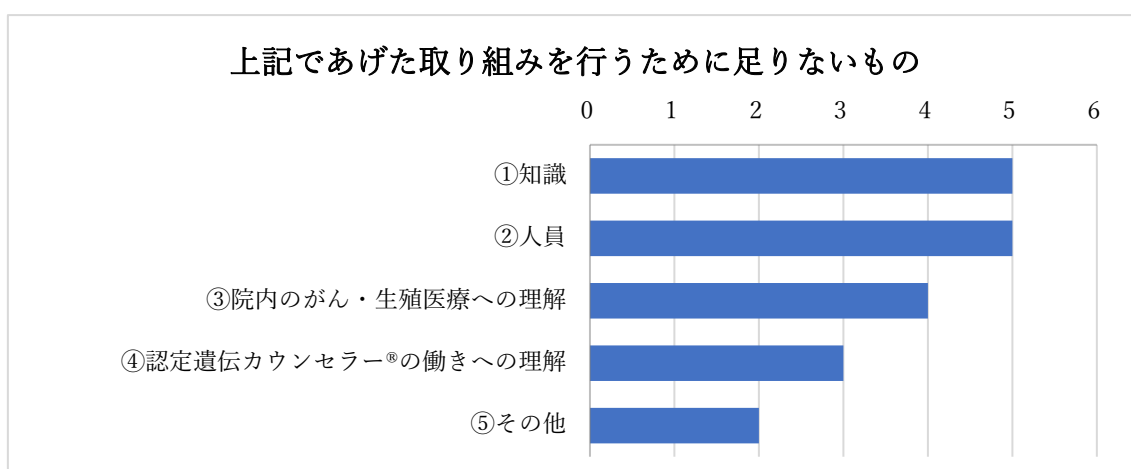


図 4-2. (質問 7) 前項であげた取り組みを行うためには何が足りない、もしくは充足したらいいと考えますか。(複数回答可)

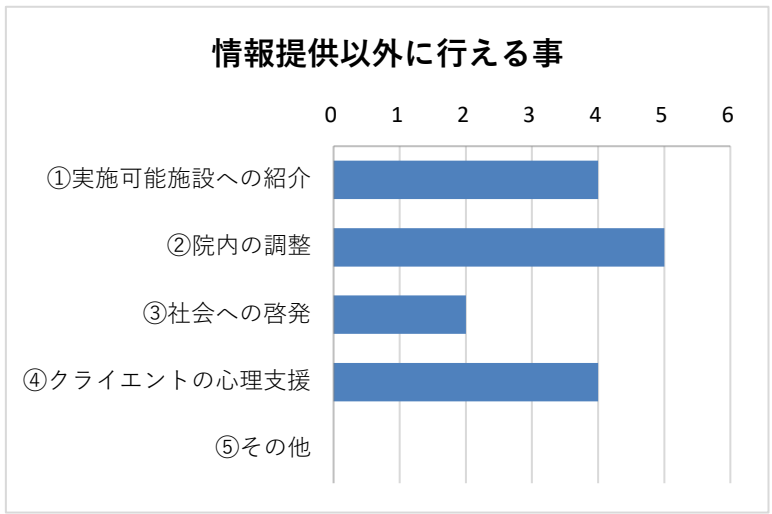


図 5-1. (質問 9) がん・生殖医療において認定遺伝カウンセラー®は情報提供以外にどのような事が行えると思いますか。(複数回答可)

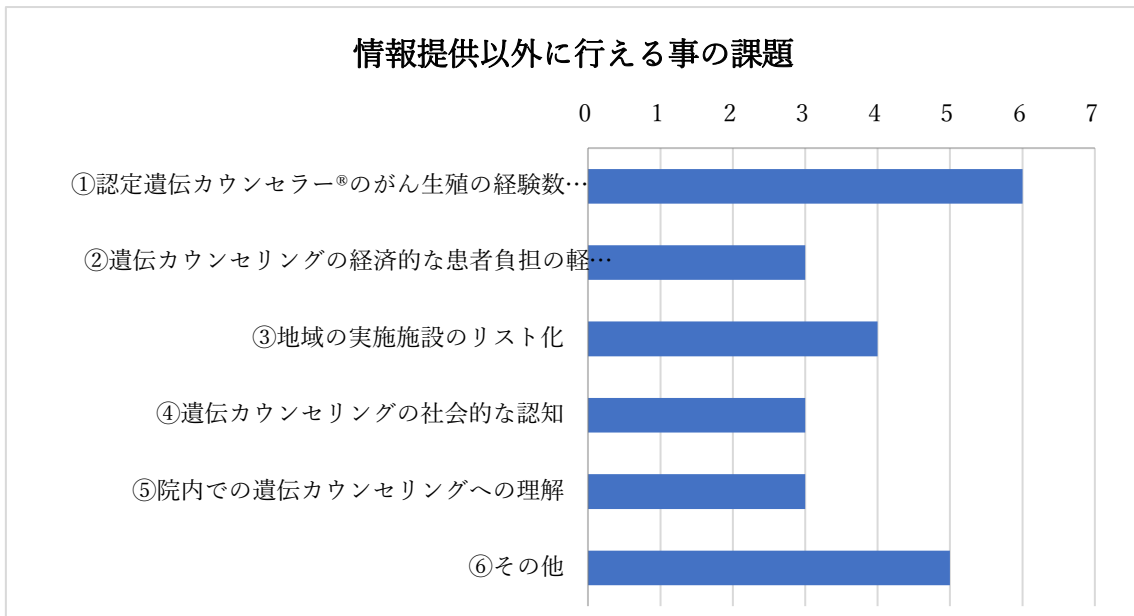


図 5-2. (質問 10) それができるようになるにはどのような課題がありますか。(複数回答可)

資料

資料 1、アンケート内容

1次アンケート

1	あなたのご年齢をお教え下さい。
2	あなたの性別をお教え下さい。
3	遺伝カウンセラーとして臨床（医療現場）に従事した年数は何年ですか。
4	あなたの専門領域(主に行っている業務内容)を選択してください。
5	あなたの雇用されている勤務先機関をお教え下さい。(複数勤務先がある場合は全て選択してください。)
6	がん・生殖医療について情報提供の対象となる方*に遺伝性腫瘍についてのお話をした事がありますか。*主に AYA 世代(15-39 歳)の方や CAYA 世代(0-39 歳)の代諾者(治療決定支援者)
7	それはどのタイミングですか。(最も多いタイミングを一つ選択してください)
8	今まで遺伝カウンセラーとして従事している中ががん・生殖医療について情報提供を行った事がありますか。
9	上記質問で②や③と答えた方に質問です。主にだれが情報提供をしていましたか。
10	自らが実施するかどうかに関わらず、がんの診断を受けた生殖年齢の患者さんに対して、がん治療を開始する前に妊孕性温存に関する適切なカウンセリングの機会を提供するべきと考えますか。
11	上記質問で「はい」と答えた方に質問です。該当するものを選んでください。
12	クライアントと妊孕性温存について機会があれば話したいと思いませんか。
13	がん・生殖医療の分野で認定遺伝カウンセラーの働きは必要だと思いませんか。
14	がん・生殖医療の分野で認定遺伝カウンセラーの関わりの障壁となる要因と考えられるものは何だと思いませんか？それぞれに対し 5 段階評価で記載してください。
14-1	患者の妊孕性温存への余裕の有無（病態・気持ち）
14-2	患者の年齢
14-3	パートナーの有無
14-4	セッション回数の少なさ
14-5	自分の妊孕性温存への知識やスキル不足
14-6	妊孕性温存についてのネットワークがあるかどうか
14-7	妊孕性温存のカウンセリングをするための自分の能力向上のための時間的制約
14-8	がん・生殖医療に対する周りの医療者の認識・知識不足
15	今後、さらになががん・生殖医療についての調査を行いたいのですがご協力いただける

	方はご連絡先の記入をお願いします(がん・生殖医療の経験の有無を問いません)。
--	--

2次アンケート A(1次アンケート質問8にて経験あり)

1	がん・生殖医療についてあなたの勤務先（複数あればメインの施設）ではどのような取り組みをしていますか。（複数回答可）
2	1で①と答えた人に質問です。がん・生殖医療についてあなたの勤務先（複数あればメインの施設）ではどのような情報提供をしていますか。（複数回答可）
3	がん・生殖医療の情報提供は誰が行う事が多いですか。（複数回答可）
4	がん・生殖医療の情報提供はどのような場面で行う事が多いですか。（複数回答可）
5	がん・生殖医療について認定遺伝カウンセラー®としてどのような情報提供をしていますか。（複数回答可）
6	認定遺伝カウンセラー®が情報提供を行う場合、どのような場面で行う事が多いですか。（複数回答可）
7	現在実施している事以外に、どのような情報提供が必要だと思えますか。（複数回答可）
8	がん・生殖医療において認定遺伝カウンセラー®は情報提供以外にどのような事が行えると思えますか。（複数回答可）
9	上記8で記載したことができるようになるにはどのような課題がありますか。（複数回答可）
10	認定遺伝カウンセラー®としてあなたが、がん・生殖医療のチーム医療への取り組みとしてうまく取り組めたと思ったのはどのようなときですか。（複数回答可）
11	逆にあなたが、うまく取り組めなかったというのはどのようなときですか。（複数回答可）
12	うまく取り組めなかったことに対してあなたはどのような支援があれば解決できると思えますか。（複数回答可）
13	現在の施設でのがん・生殖医療における取り組みについて十分であると思えますか。
14	上記13でいいえと答えた方に質問です。どのような取り組みや情報提供が足りないと考えますか。（複数回答可）
15	14であげた取り組みを行うためには何が足りない、もしくは充足したらいいと考えますか。（複数回答可）
16	がん・生殖医療への取り組みも含め、遺伝医療に遺伝カウンセラーがより積極的に関わるためにはどのような事が必要だと思えますか。（複数回答可）
17	認定遺伝カウンセラー®としてがん・生殖医療への取り組みで一般的にどのような事が課題だと思えますか。（複数回答可）

18	その課題はどの様な事があると解決できますか。(複数回答可)
19	知識面ではがん治療や生殖補助医療について学ぶ機会があると、がん・生殖医療への取り組みにプラスになりますか。
20	学ぶ機会としてはどの様なものがありますか。(複数回答可)
21	今後、着床前診断について遺伝性腫瘍が対象になった際のがん・生殖医療の分野でどの様な課題が上がると思いますか。(特に懸念されるもの上位3つをお答え下さい)
22	がん・生殖医療の中で遺伝カウンセラーの働きが学会等で定義されていると院内で動きやすいですか。
23	がん・生殖医療についての情報提供をするのに院内の誰かの許可が必要ですか。(複数回答可)
24	がん・生殖医療の情報提供について障壁になっている人はいますか。(複数回答可)

2次アンケート B(1次アンケート質問8にて経験なし)

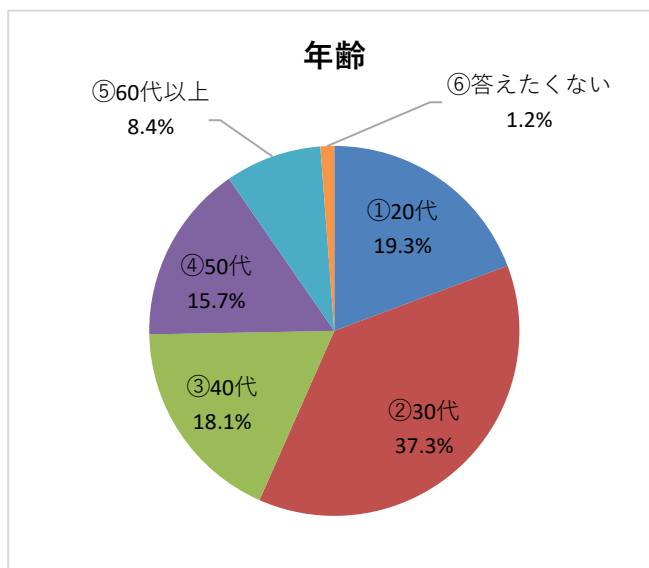
1	あなたの勤務先(複数あればメインの施設)ではがん生殖医療について何かしら(情報提供含む)の取り組みをしていますか。
2-1	質問1ではいと回答いただいた方に質問です。がん・生殖医療についてあなたの勤務先(複数あればメインの施設)ではどの様な取り組みをしていますか。(複数回答可)
2-2	がん・生殖医療についてあなたの勤務先(複数あればメインの施設)ではどの様な情報提供をしていますか。(複数回答可)
2-3	がん・生殖医療の情報提供は誰が行う事が多いですか。(複数回答可)
2-4	がん・生殖の情報提供はどの様な場面で行う事が多いですか。(複数回答可)
3	質問1でいいえと回答いただいた方に質問です。 取り組んでいない理由について教えてください。(複数回答可)
4	質問1でわからないと回答いただいた方に質問です。 わからない理由について教えてください。(複数回答可)
5	あなたは、現在の施設でのがん・生殖医療における取り組みについて十分であると思いますか。
6	質問5でいいえと答えた方に質問です。どの様な取り組みや情報提供が足りないと考えますか。(複数回答可)
7	6であげた取り組みを行うためには何が足りない、もしくは充足したらいいと考えますか。(複数回答可)
8	がん・生殖医療への取り組みも含め、遺伝医療に遺伝カウンセラーがより積極的に関わるためにはどの様な事が重要だと思えますか。(複数回答可)

9	がん・生殖医療において認定遺伝カウンセラー®は情報提供以外にどのような事が行えると思いますか。(複数回答可)
10	それができるようになるにはどのような課題がありますか。(複数回答可)
11	どのような事があると解決できますか。(複数回答可)
12	知識面ではがん治療や生殖補助医療について学ぶ機会があると、がん・生殖医療への取り組みにプラスになりますか。
13	学ぶ機会としてはどのようなものがありますか。(複数回答可)
14	今後、着床前診断について遺伝性腫瘍が対象になった際のがん・生殖医療の分野でどのような課題が上がると思いますか。特に懸念されるもの上位3つをお答え下さい。
15	がん・生殖医療の中で遺伝カウンセラーの働きが学会等で定義されていると院内で動きやすいですか。
16	がん・生殖医療についての情報提供をするのに院内の誰かの許可が必要ですか。(複数回答可)
17	がん・生殖医療の情報提供について障壁になっている人はいますか。(複数回答可)

「がん・生殖における遺伝カウンセラーの役割に関する実態調査」アンケート集計

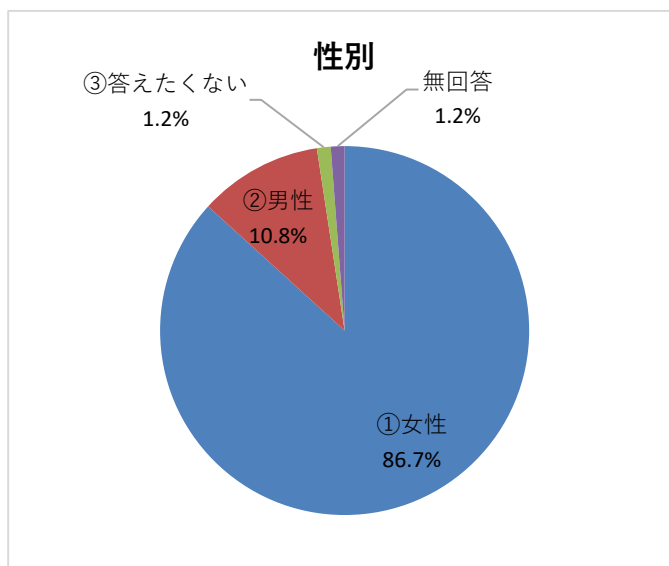
1. あなたのご年齢をお教え下さい。

項目	件数	%
合計	83	100.0%
①20代	16	19.3%
②30代	31	37.3%
③40代	15	18.1%
④50代	13	15.7%
⑤60代以上	7	8.4%
⑥答えたくない	1	1.2%
無回答	0	0.0%



2. あなたの性別をお教え下さい。

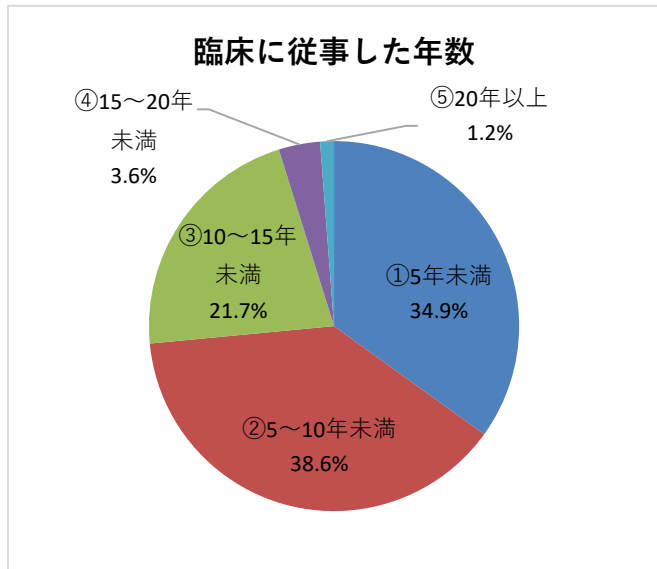
項目	件数	%
合計	83	100.0%
①女性	72	86.7%
②男性	9	10.8%
③答えたくない	1	1.2%
無回答	1	1.2%



3. 遺伝カウンセラーとして臨床(医療現場)に従事した年数は何年ですか。

認定資格取得前に臨床に従事した年数も含まれます。

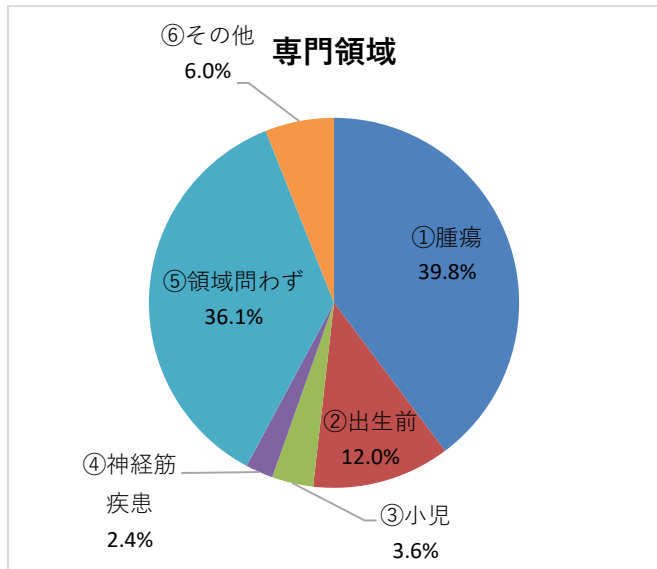
項目	件数	%
合計	83	100.0%
①5年未満	29	34.9%
②5～10年未満	32	38.6%
③10～15年未満	18	21.7%
④15～20年未満	3	3.6%
⑤20年以上	1	1.2%
無回答	0	0.0%



4. あなたの専門領域(主に行っている業務内容)を選択してください。

項目	件数	%
合計	83	100.0%
①腫瘍	33	39.8%
②出生前	10	12.0%
③小児	3	3.6%
④神経筋疾患	2	2.4%
⑤領域問わず	30	36.1%
⑥その他	5	6.0%
無回答	0	0.0%

専門領域(その他)
生殖
眼科
着床前診断
教育



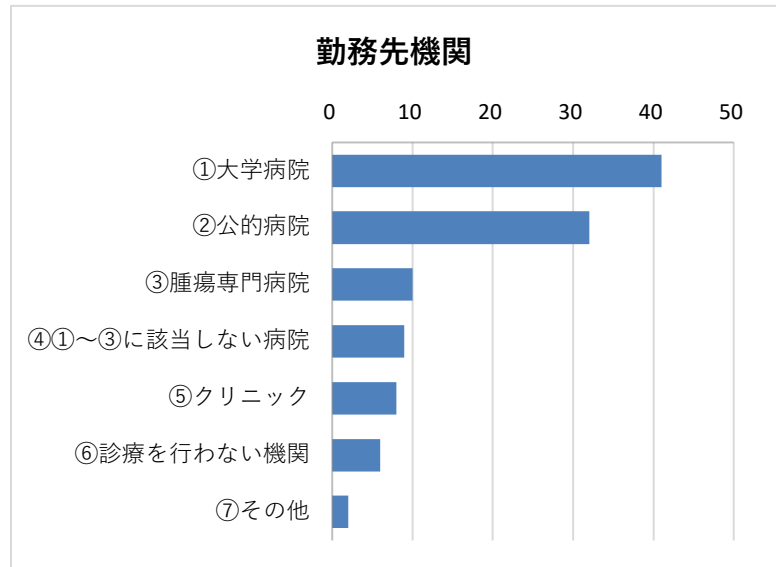
5. あなたの雇用されている勤務先機関をお教え下さい。

複数勤務先がある場合は全て選択してください。

項目	件数
①大学病院	41
②公的病院	32
③腫瘍専門病院	10
④①～③に該当しない病院	9
⑤クリニック	8
⑥診療を行わない機関	6
⑦その他	2

勤務先機関(その他)

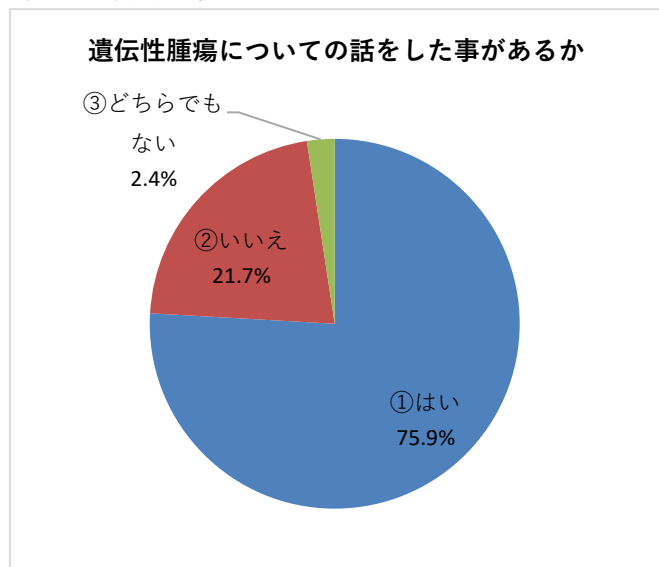
※その他の記入が1件もありませんでした。



6. がん・生殖医療について情報提供の対象となる方*に遺伝性腫瘍についてのお話をした事がありますか。

*主にAYA世代(15-39歳)の方やCAYA世代(0-39歳)の代諾者(治療決定支援者)

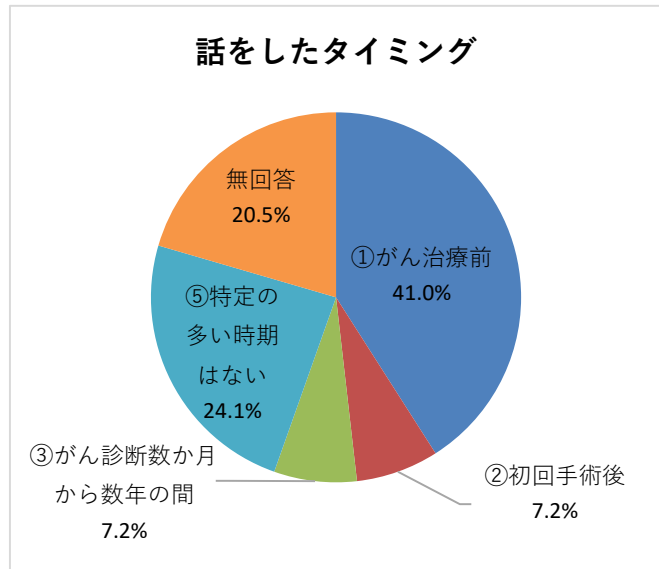
項目	件数	%
合計	83	100.0%
①はい	63	75.9%
②いいえ	18	21.7%
③どちらでもない	2	2.4%
無回答	0	0.0%



7. それはどのタイミングですか。

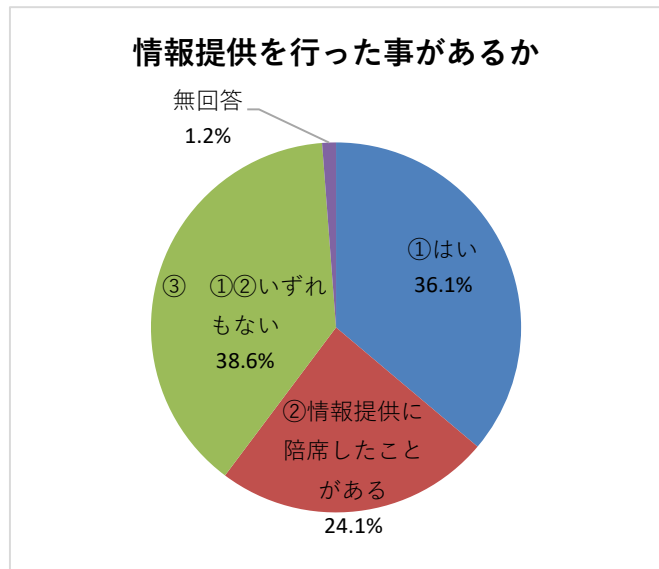
最も多いタイミングを一つ選択してください。

項目	件数	%
合計	83	100.0%
①がん治療前	34	41.0%
②初回手術後	6	7.2%
③がん診断数か月から数年の間	6	7.2%
④再発後	0	0.0%
⑤特定の多い時期はない	20	24.1%
無回答	17	20.5%



8. 今まで遺伝カウンセラーとして従事している期間にがん・生殖医療について情報提供を行った事がありますか。

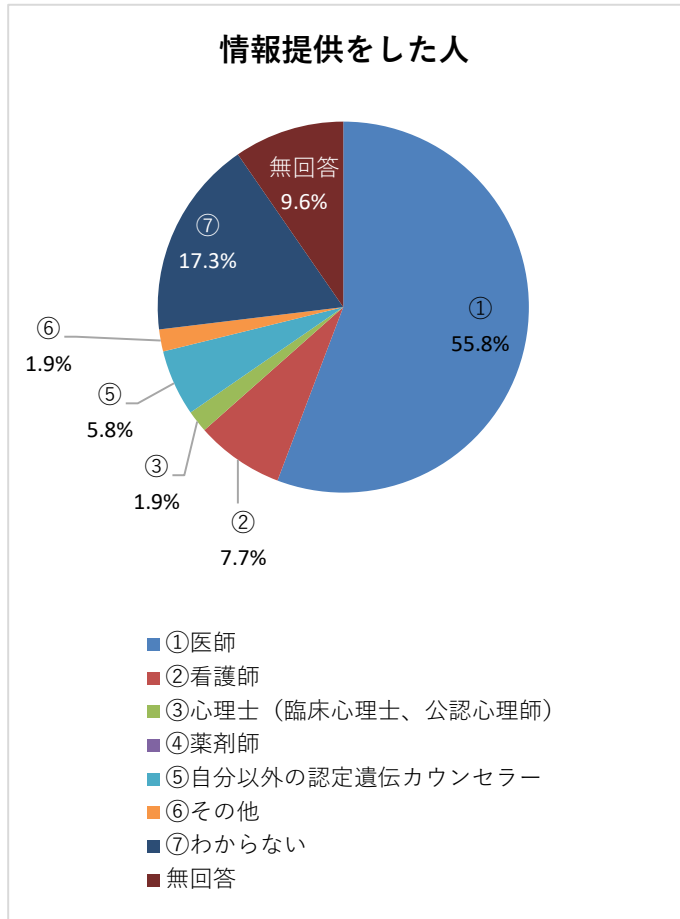
項目	件数	%
合計	83	100.0%
①はい	30	36.1%
②情報提供に陪席したことがある	20	24.1%
③ ①②いずれもない	32	38.6%
無回答	1	1.2%



9. 上記質問で②や③と答えた方に質問です。主にだれが情報提供をしていましたか。

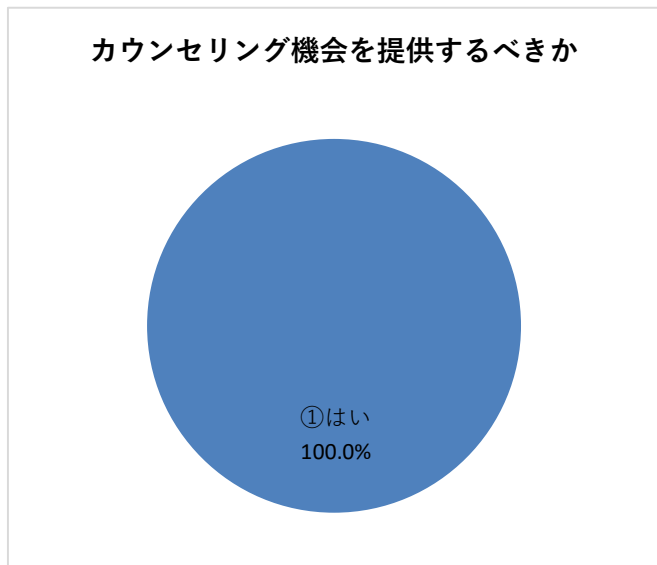
項目	件数	%
合計	52	100.0%
①医師	29	55.8%
②看護師	4	7.7%
③心理士(臨床心理士、公認心理)	1	1.9%
④薬剤師	0	0.0%
⑤自分以外の認定遺伝カウンセラ	3	5.8%
⑥その他	1	1.9%
⑦わからない	9	17.3%
無回答	5	9.6%

情報提供をした人(その他)
生殖医療を実施していない



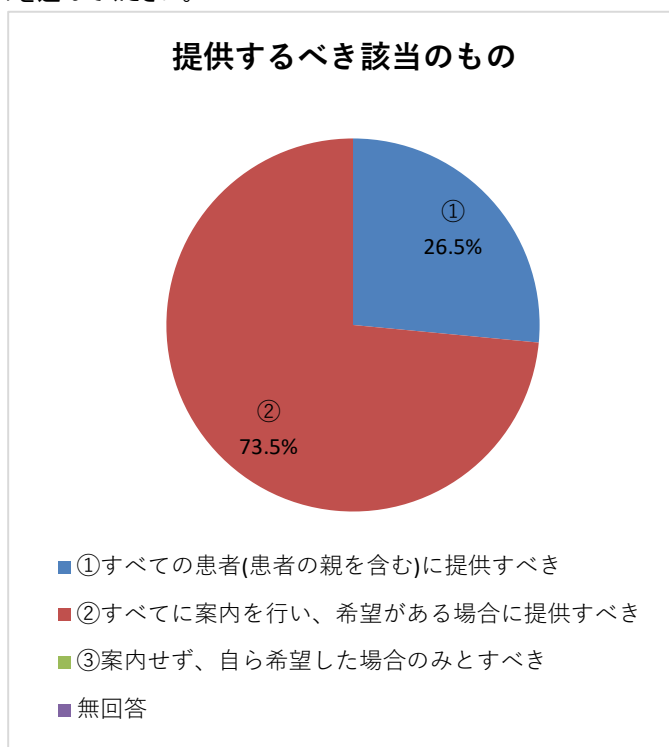
10. 自らが実施するかどうかに関わらず、がんの診断を受けた生殖年齢の患者さんに対して、がん治療を開始する前に妊孕性温存に関する適切なカウンセリングの機会を提供するべきと考えますか。

項目	件数	%
合計	83	100.0%
①はい	83	100.0%
②いいえ	0	0.0%
無回答	0	0.0%



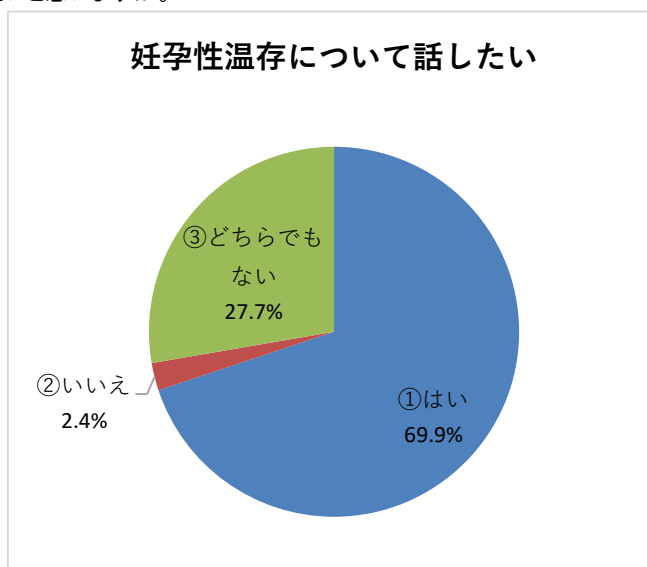
11. 上記質問で「はい」と答えた方に質問です。該当するものを選んでください。

項目	件数	%
合計	83	100.0%
①すべての患者(患者の親を含む)に提供すべき	22	26.5%
②すべてに案内を行い、希望がある場合に提供すべき	61	73.5%
③案内せず、自ら希望した場合のみとすべき	0	0.0%
無回答	0	0.0%



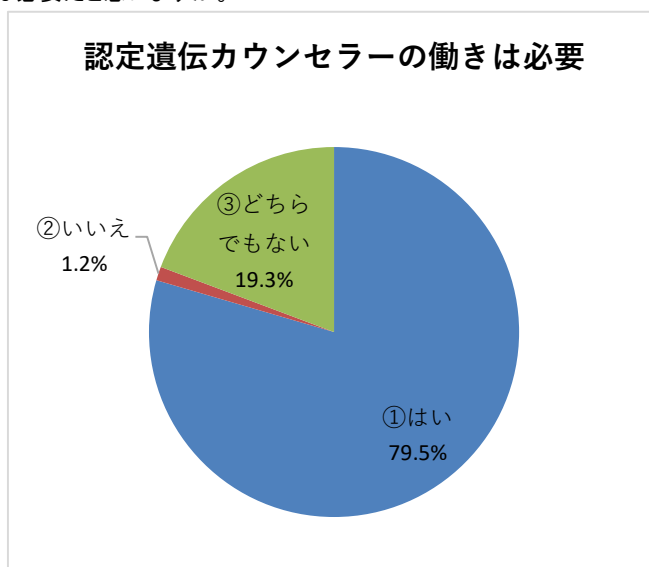
12. クライアントと妊孕性温存について機会があれば話したいと思いませんか。

項目	件数	%
合計	83	100.0%
①はい	58	69.9%
②いいえ	2	2.4%
③どちらでもない	23	27.7%
無回答	0	0.0%



13. がん・生殖医療の分野で認定遺伝カウンセラーの働きは必要だと思いますか。

項目	件数	%
合計	83	100.0%
①はい	66	79.5%
②いいえ	1	1.2%
③どちらでもない	16	19.3%
無回答	0	0.0%

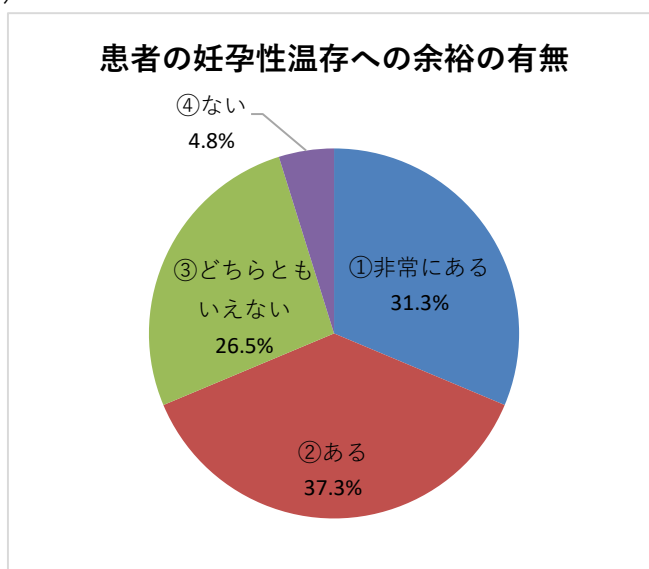


14. がん・生殖医療の分野で認定遺伝カウンセラーの関わりの障壁となる要因と考えられるものは何だと思いますか？

それぞれに対し5段階評価で記載してください。

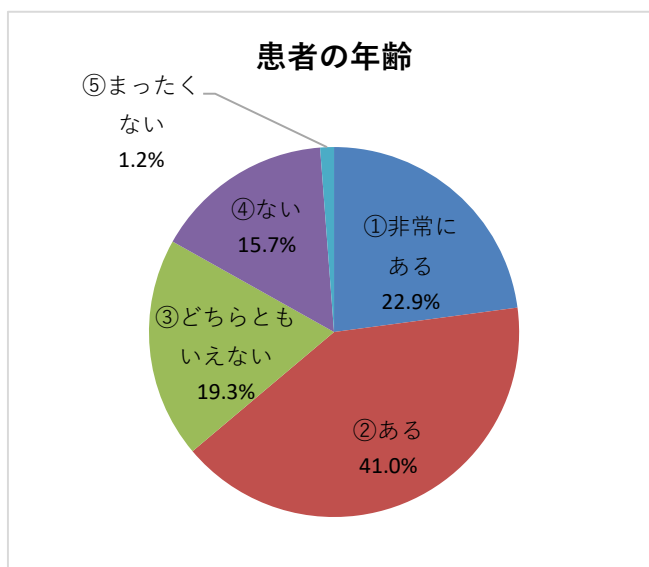
14-1. 患者の妊孕性温存への余裕の有無(病態・気持ち)

項目	件数	%
合計	83	100.0%
①非常にある	26	31.3%
②ある	31	37.3%
③どちらともいえない	22	26.5%
④ない	4	4.8%
⑤まったくない	0	0.0%
無回答	0	0.0%



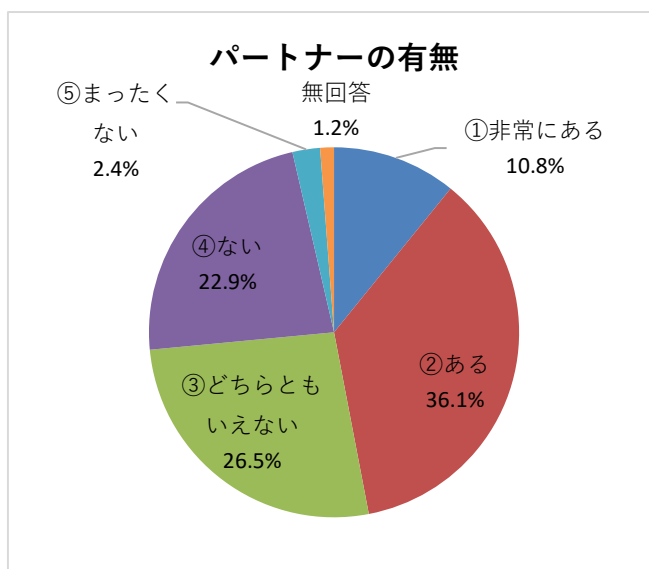
14-2. 患者の年齢

項目	件数	%
合計	83	100.0%
①非常にある	19	22.9%
②ある	34	41.0%
③どちらともいえない	16	19.3%
④ない	13	15.7%
⑤まったくない	1	1.2%
無回答	0	0.0%



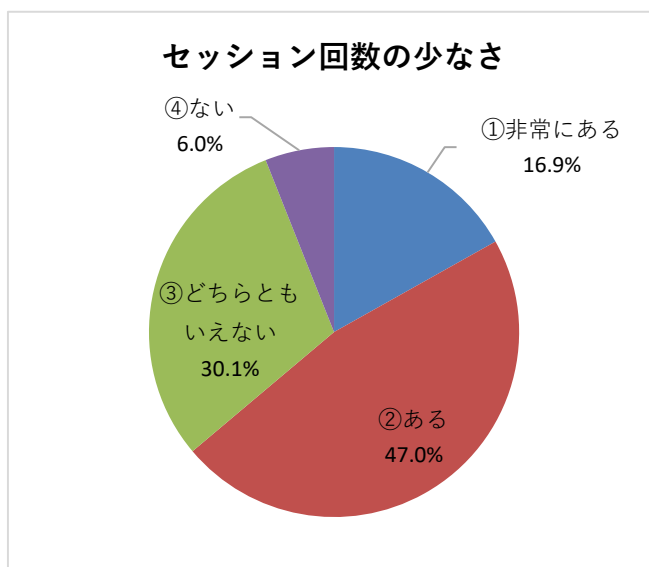
14-3. パートナーの有無

項目	件数	%
合計	83	100.0%
①非常にある	9	10.8%
②ある	30	36.1%
③どちらともいえない	22	26.5%
④ない	19	22.9%
⑤まったくない	2	2.4%
無回答	1	1.2%



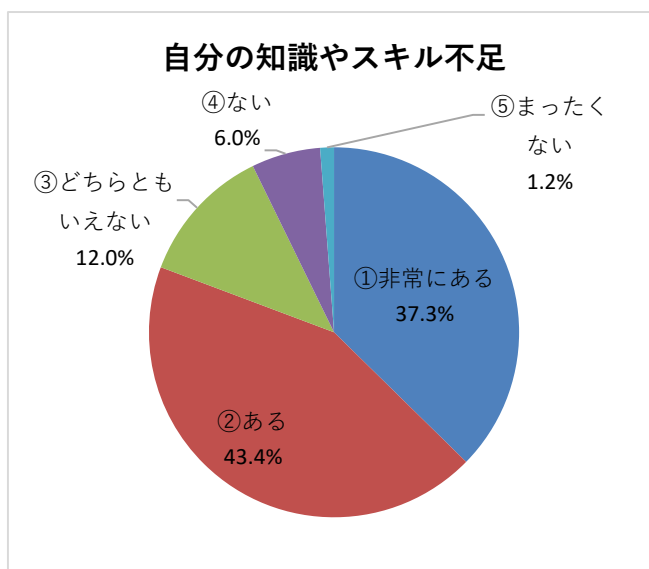
14-4. セッション回数の少なさ

項目	件数	%
合計	83	100.0%
①非常にある	14	16.9%
②ある	39	47.0%
③どちらともいえない	25	30.1%
④ない	5	6.0%
⑤まったくない	0	0.0%
無回答	0	0.0%



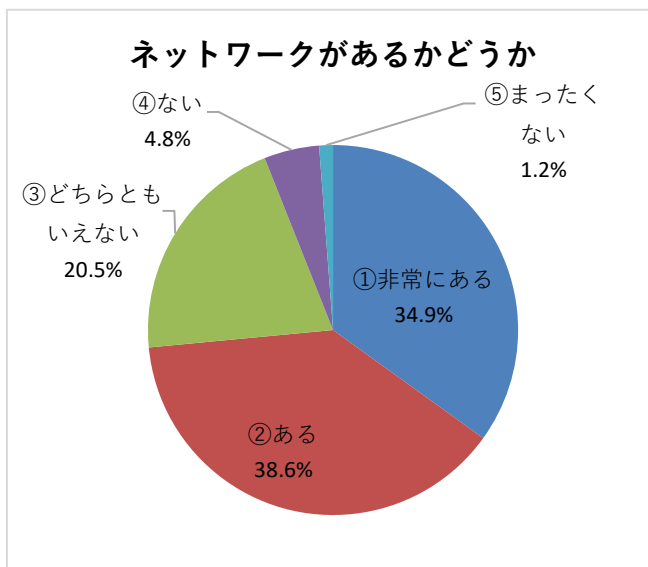
14-5. 自分の妊孕性温存への知識やスキル不足

項目	件数	%
合計	83	100.0%
①非常にある	31	37.3%
②ある	36	43.4%
③どちらともいえない	10	12.0%
④ない	5	6.0%
⑤まったくない	1	1.2%
無回答	0	0.0%



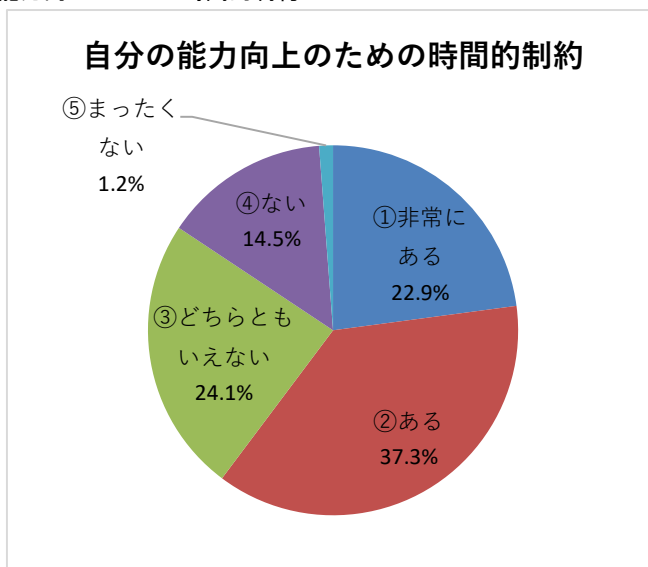
14-6. 妊孕性温存についてのネットワークがあるかどうか

項目	件数	%
合計	83	100.0%
①非常にある	29	34.9%
②ある	32	38.6%
③どちらともいえない	17	20.5%
④ない	4	4.8%
⑤まったくない	1	1.2%
無回答	0	0.0%



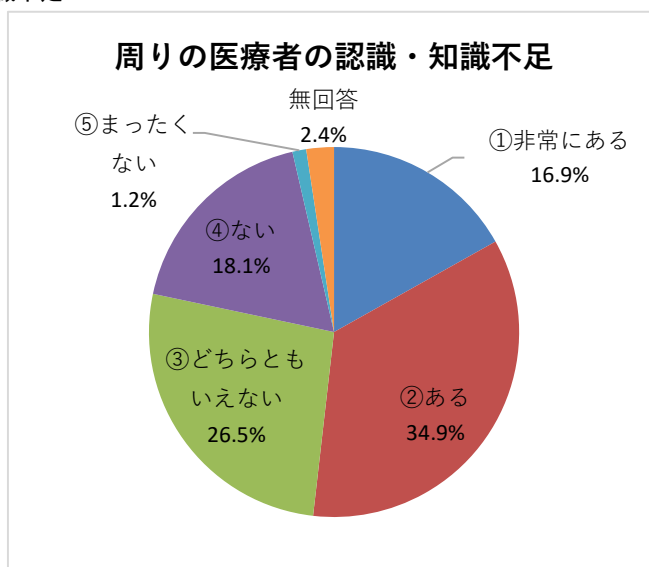
14-7. 妊孕性温存のカウンセリングをするための自分の能力向上のための時間的制約

項目	件数	%
合計	83	100.0%
①非常にある	19	22.9%
②ある	31	37.3%
③どちらともいえない	20	24.1%
④ない	12	14.5%
⑤まったくない	1	1.2%
無回答	0	0.0%



14-8. がん・生殖医療に対する周りの医療者の認識・知識不足

項目	件数	%
合計	83	100.0%
①非常にある	14	16.9%
②ある	29	34.9%
③どちらともいえない	22	26.5%
④ない	15	18.1%
⑤まったくない	1	1.2%
無回答	2	2.4%



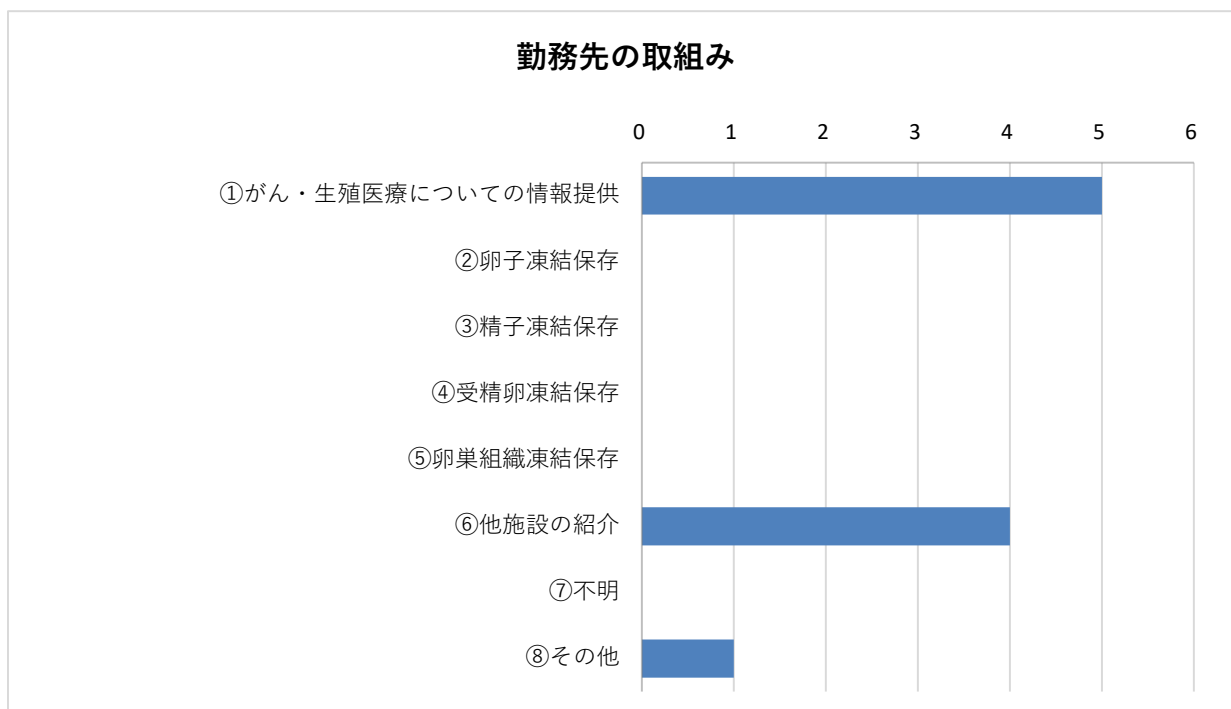
「がん・生殖における遺伝カウンセラーの役割に関する実態調査(2次調査)」 アンケート集計【がん・生殖経験あり】

1. がん・生殖医療についてあなたの勤務先(複数あればメインの施設)ではどのような取り組みをしていますか。

(複数回答可)

項目	件数
①がん・生殖医療についての情報提供	5
②卵子凍結保存	0
③精子凍結保存	0
④受精卵凍結保存	0
⑤卵巣組織凍結保存	0
⑥他施設の紹介	4
⑦不明	0
⑧その他	1

勤務先の取組み(その他)
実施していない

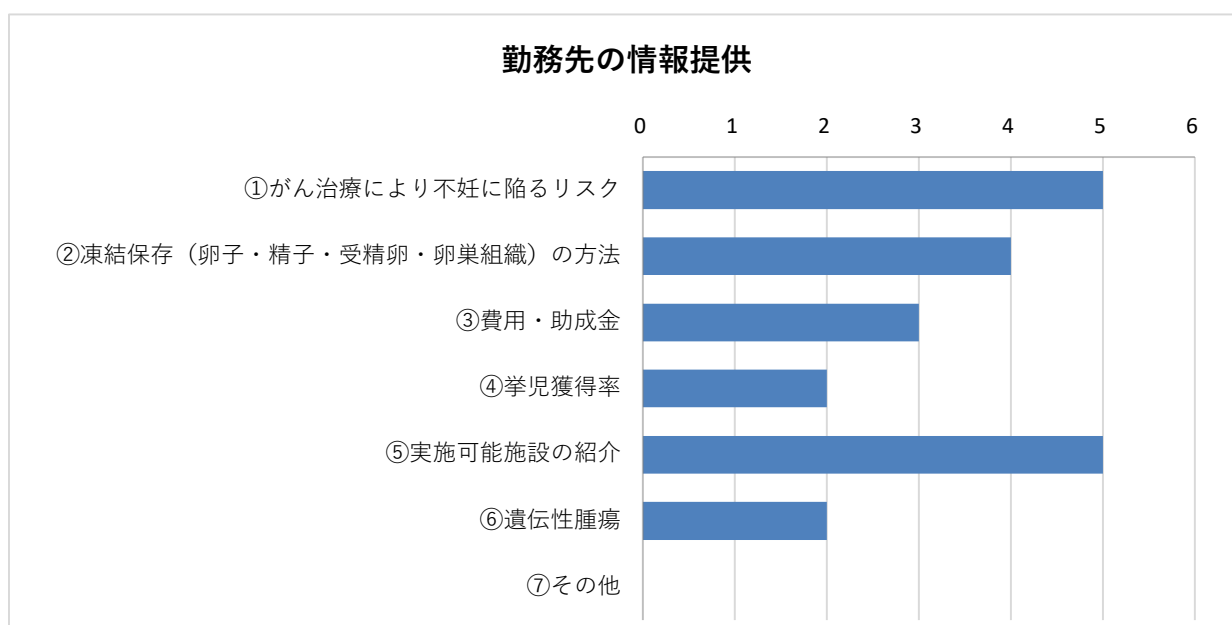


2. 1で①と答えた人に質問です。がん・生殖医療についてあなたの勤務先(複数あればメインの施設)ではどのような情報提供をしていますか。(複数回答可)

項目	件数
①がん治療により不妊に陥るリスク	5
②凍結保存(卵子・精子・受精卵・卵巣組織)の方法	4
③費用・助成金	3
④挙児獲得率	2
⑤実施可能施設の紹介	5
⑥遺伝性腫瘍	2
⑦その他	0

勤務先の情報提供(その他)

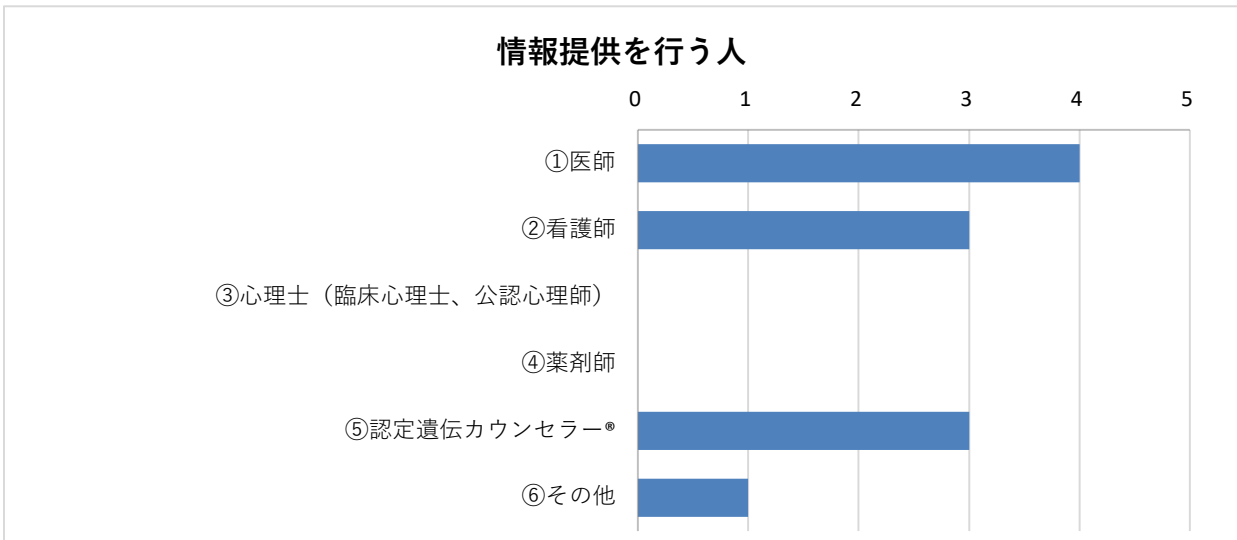
※その他の記入がありませんでした。



3. がん・生殖医療の情報提供は誰が行う事が多いですか。(複数回答可)

項目	件数
①医師	4
②看護師	3
③心理士(臨床心理士、公認心理師)	0
④薬剤師	0
⑤認定遺伝カウンセラー®	3
⑥その他	1

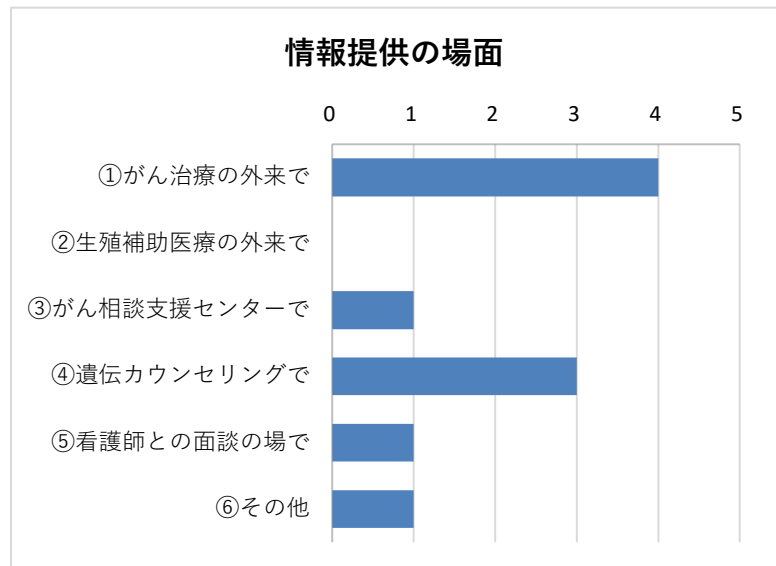
情報提供を行う人(その他)
症例なし



4. がん・生殖医療の情報提供はどのような場面で行う事が多いですか。(複数回答可)

項目	件数
①がん治療の外来で	4
②生殖補助医療の外来で	0
③がん相談支援センターで	1
④遺伝カウンセリングで	3
⑤看護師との面談の場で	1
⑥その他	1

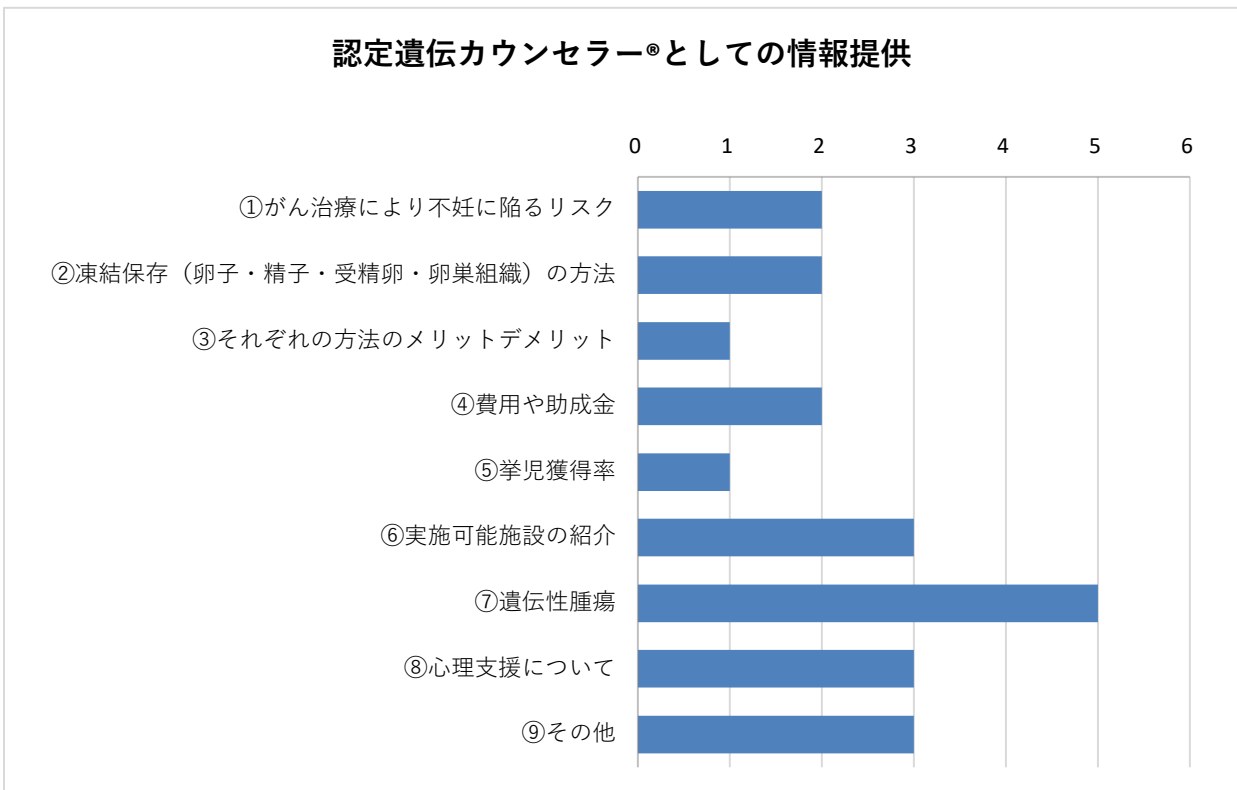
情報提供の場面(その他)
症例なし



5. がん・生殖医療について認定遺伝カウンセラー®としてどのような情報提供をしていますか。(複数回答可)

項目	件数
①がん治療により不妊に陥るリスク	2
②凍結保存(卵子・精子・受精卵・卵巣組織)の方法	2
③それぞれの方法のメリットデメリット	1
④費用や助成金	2
⑤挙児獲得率	1
⑥実施可能施設の紹介	3
⑦遺伝性腫瘍	5
⑧心理支援について	3
⑨その他	3

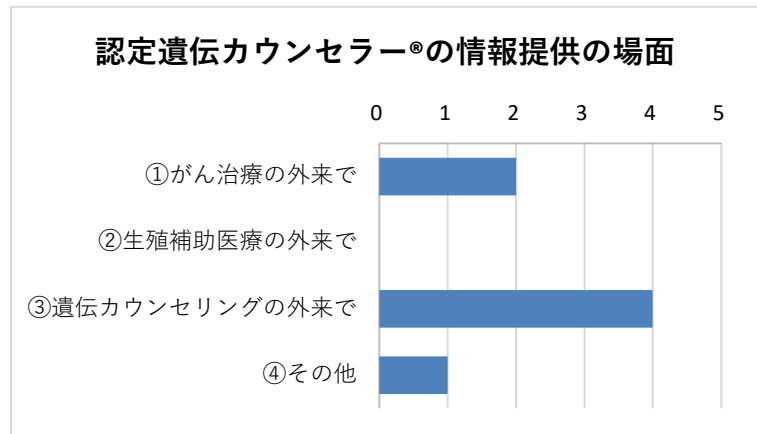
認定遺伝カウンセラー®としての情報提供(その他)
院内での相談先
がん・生殖医療分野が進展しておりさまざまな情報が得られること、地域のがん生殖医療ネットワークの存在と、そのコーディネーター施設でのカウンセリングを受けることができること
症例なし



6. 認定遺伝カウンセラー®が情報提供を行う場合、どのような場面で行う事が多いですか。(複数回答可)

項目	件数
①がん治療の外来で	2
②生殖補助医療の外来で	0
③遺伝カウンセリングの外来で	4
④その他	1

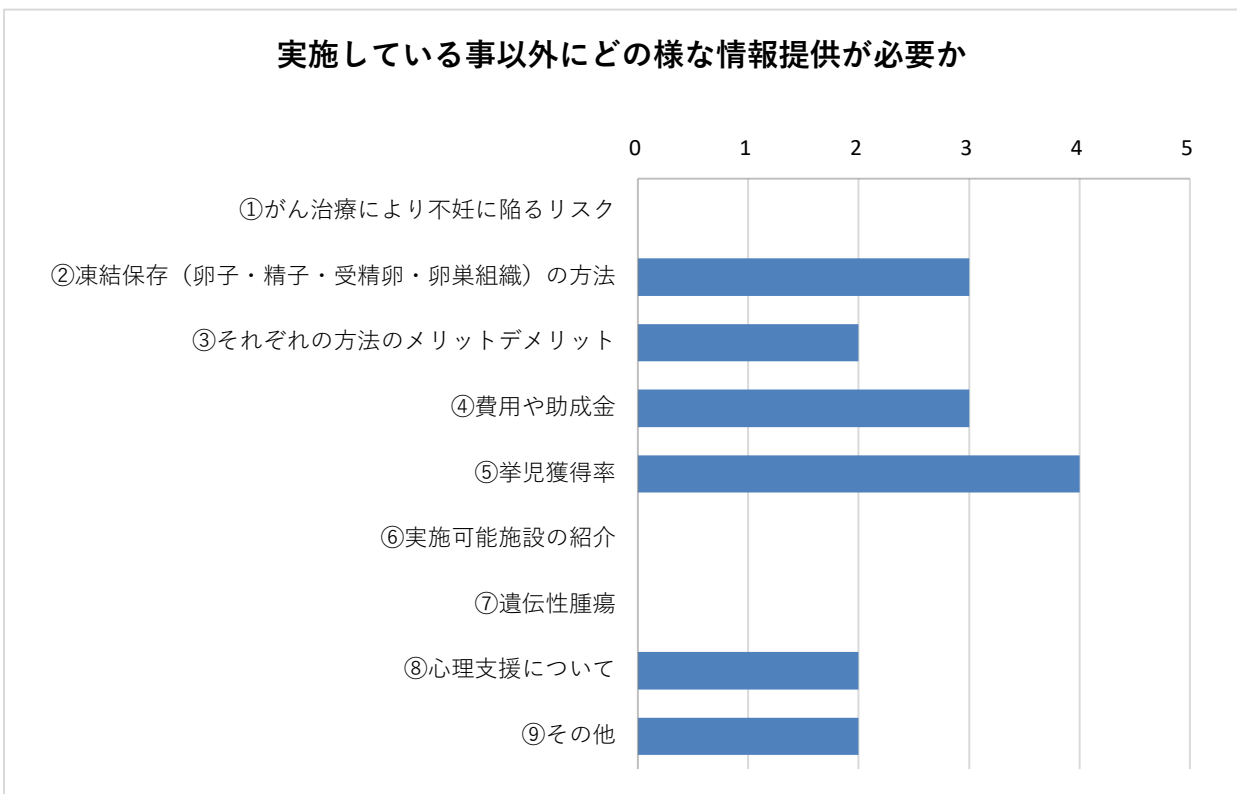
認定遺伝カウンセラー®の情報提供の場面(その他)
症例なし



7. 現在実施している事以外に、どのような情報提供が必要だと思いますか。(複数回答可)

項目	件数
①がん治療により不妊に陥るリスク	0
②凍結保存(卵子・精子・受精卵・卵巣組織)の方法	3
③それぞれの方法のメリットデメリット	2
④費用や助成金	3
⑤挙児獲得率	4
⑥実施可能施設の紹介	0
⑦遺伝性腫瘍	0
⑧心理支援について	2
⑨その他	2

実施している事以外にどのような情報提供が必要か(その他)
パートナーとの相談を設ける、パートナー、親への心理支援
症例ないため実施していない

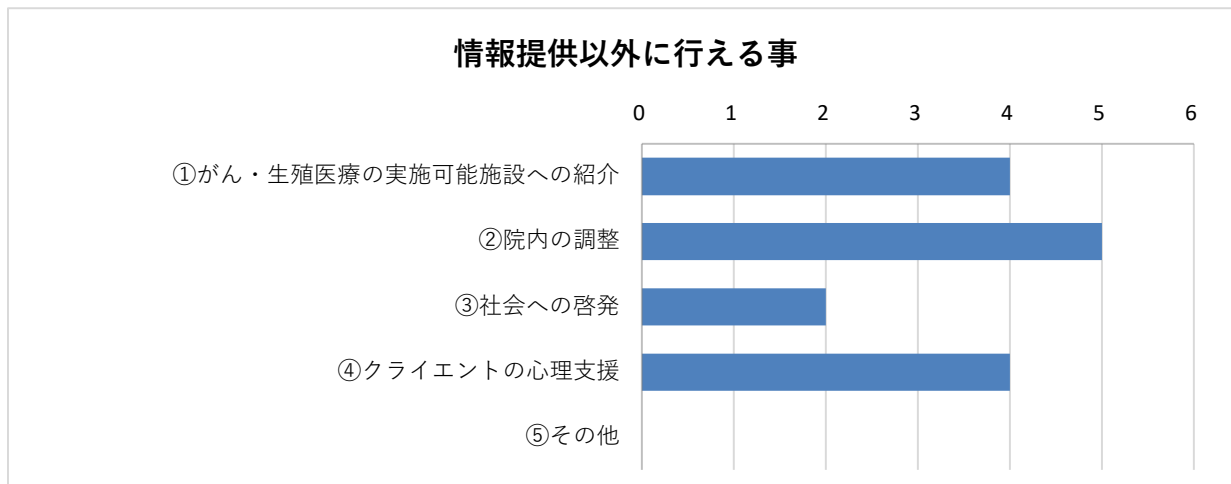


8. がん・生殖医療において認定遺伝カウンセラー®は情報提供以外にどのような事が行えると思いますか。(複数回答可)

項目	件数
①がん・生殖医療の実施可能施設への紹介	4
②院内の調整	5
③社会への啓発	2
④クライアントの心理支援	4
⑤その他	0

情報提供以外に行える事(その他)

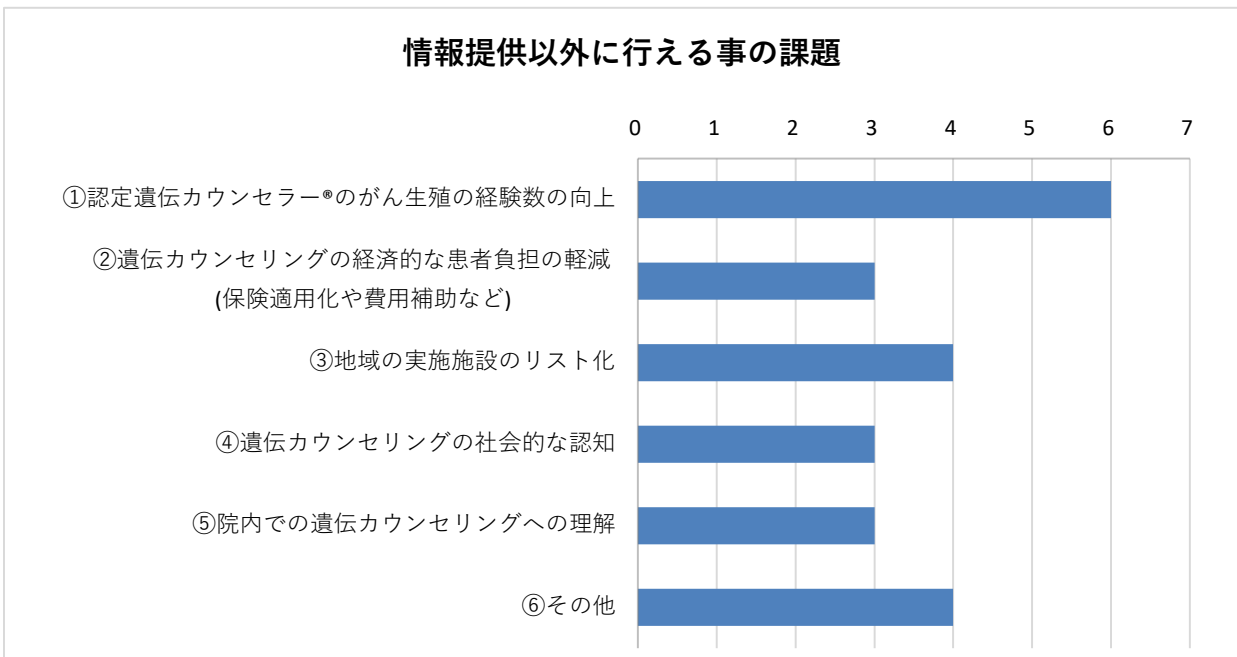
※その他の記入がありませんでした。



9. 上記8で記載したことができるようになるにはどのような課題がありますか。(複数回答可)

項目	件数
①認定遺伝カウンセラー®のがん生殖の経験数の向上	6
②遺伝カウンセリングの経済的な患者負担の軽減 (保険適用化や費用補助など)	3
③地域の実施設のリスト化	4
④遺伝カウンセリングの社会的な認知	3
⑤院内での遺伝カウンセリングへの理解	3
⑥その他	4

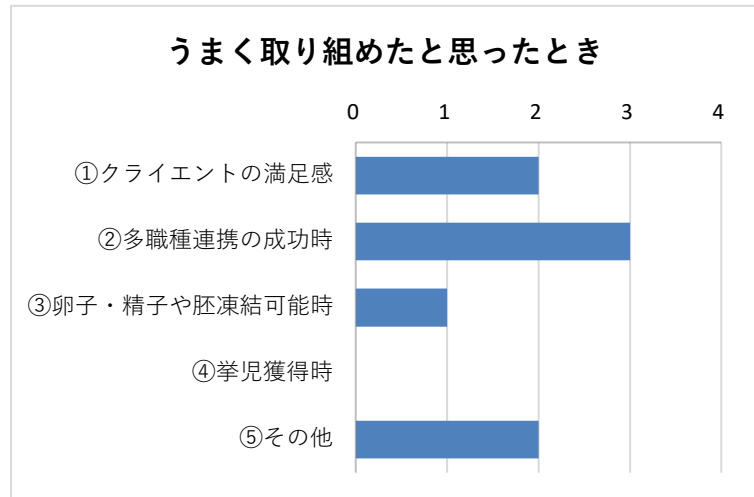
情報提供以外に行える事の課題(その他)
認定遺伝カウンセラー
職域の明確化
遺伝カウンセリングの場で、遺伝カウンセラーによる情報提供が可能であることを癌に関わる医療従事者に理解してもらうこと
検査外の遺伝カウンセリングに対する加算



10. 認定遺伝カウンセラー®としてあなたが、がん・生殖医療のチーム医療への取り組みとしてうまく取り組めたと思ったのは
 どのようなときですか。(複数回答可)

項目	件数
①クライアントの満足感	2
②多職種連携の成功時	3
③卵子・精子や胚凍結可能時	1
④拳児獲得時	0
⑤その他	2

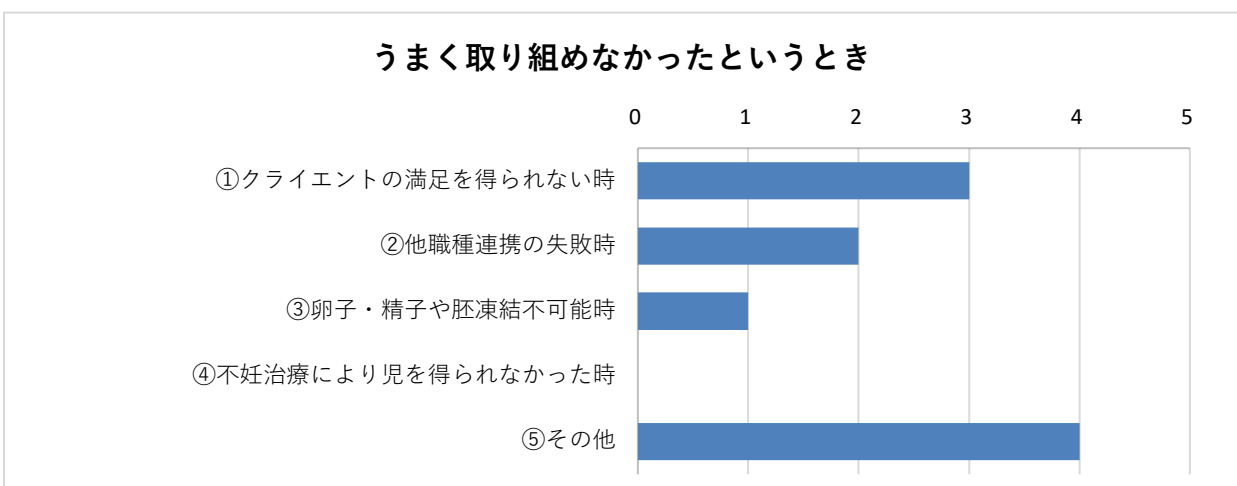
うまく取り組めたと思ったとき(その他)
上手く取り組めたと思うほど深く取り組んだ経験がない
症例なしのため回答不可



11. 逆にあなたが、うまく取り組めなかったというのはどのようなときですか。(複数回答可)

項目	件数
①クライアントの満足を得られない時	3
②他職種連携の失敗時	2
③卵子・精子や胚凍結不可能時	1
④不妊治療により児を得られなかった時	0
⑤その他	4

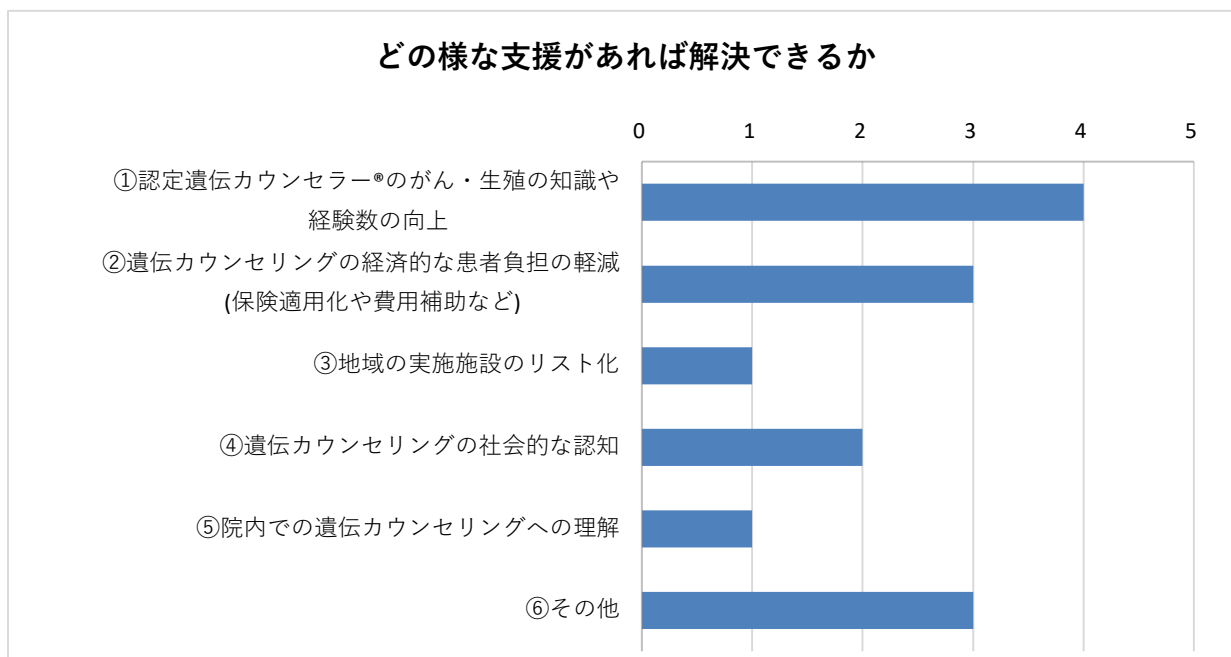
うまく取り組めなかったというとき(その他)
該当なし
10と同様
各診療科医師の理解
症例なしのため回答不可



12. うまく取り組めなかったことに対してあなたほどの様な支援があれば解決できると思いますか。(複数回答可)

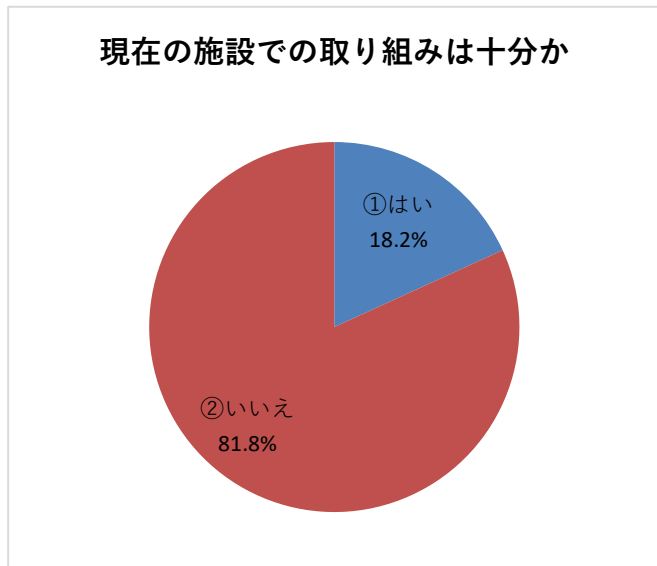
項目	件数
①認定遺伝カウンセラー®のがん・生殖の知識や経験数の向上	4
②遺伝カウンセリングの経済的な患者負担の軽減(保険適用化や費用補助など)	3
③地域の実施施設のリスト化	1
④遺伝カウンセリングの社会的な認知	2
⑤院内での遺伝カウンセリングへの理解	1
⑥その他	3

どの様な支援があれば解決できるか(その他)
10と同様、回答者として値しない
症例なしのため回答不可
がん・生殖医療に関する遺伝カウンセリング支援ツール(患者が理解すべき内容を網羅した説明資料)、最新の知識が得られる継続的な教育機会



13. 現在の施設でのがん・生殖医療における取り組みについて十分であると思いますか。

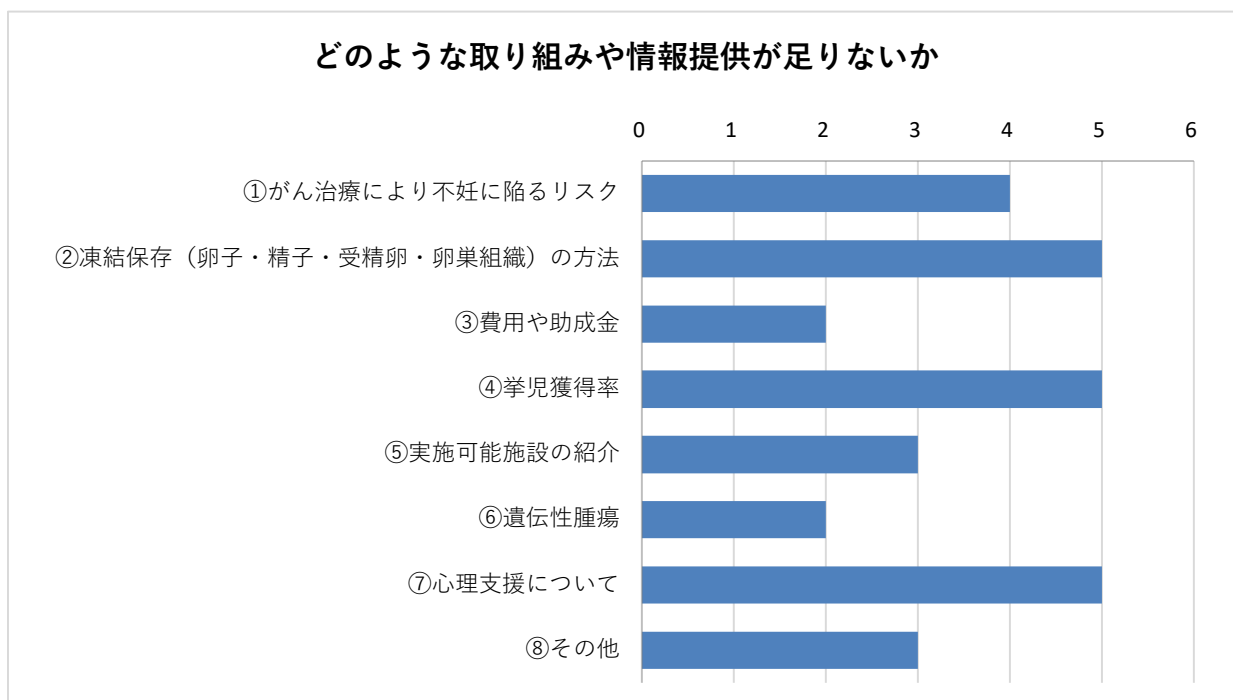
項目	件数	%
合計	11	100.0%
①はい	2	18.2%
②いいえ	9	81.8%
無回答	0	0.0%



14. 上記13でいいえと答えた方に質問です。どのような取り組みや情報提供が足りないと考えますか。(複数回答可)

項目	件数
①がん治療により不妊に陥るリスク	4
②凍結保存(卵子・精子・受精卵・卵巣組織)の方法	5
③費用や助成金	2
④挙児獲得率	5
⑤実施可能施設の紹介	3
⑥遺伝性腫瘍	2
⑦心理支援について	5
⑧その他	3

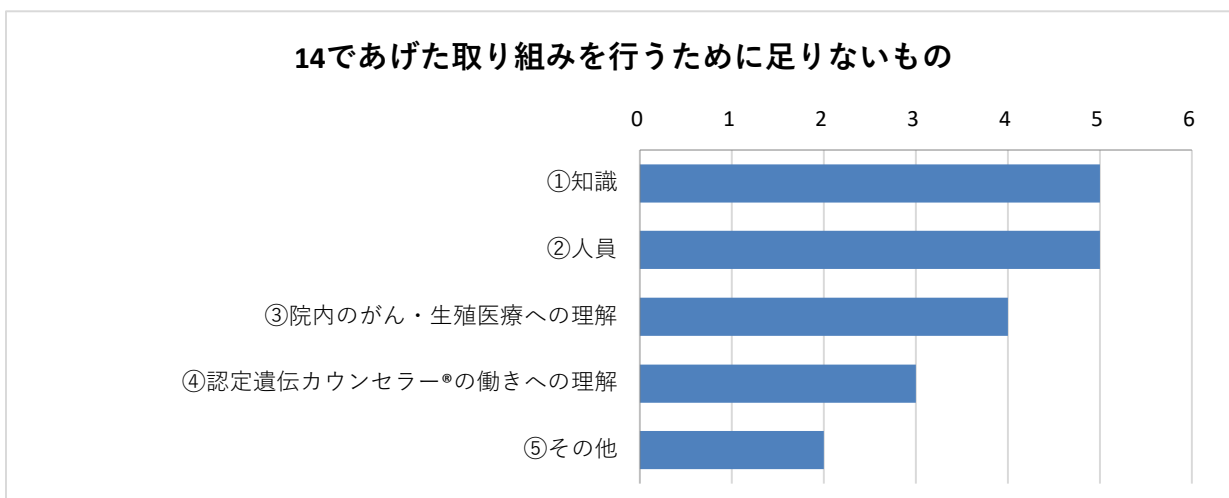
どのような取り組みや情報提供が足りないか(その他)
院内での認知があまりされていない
症例なし
がん・生殖医療に関する基礎知識



15. 14であげた取り組みを行うためには何が足りない、もしくは充足したらいいと考えますか。(複数回答可)

項目	件数
①知識	5
②人員	5
③院内のがん・生殖医療への理解	4
④認定遺伝カウンセラー®の働きへの理解	3
⑤その他	2

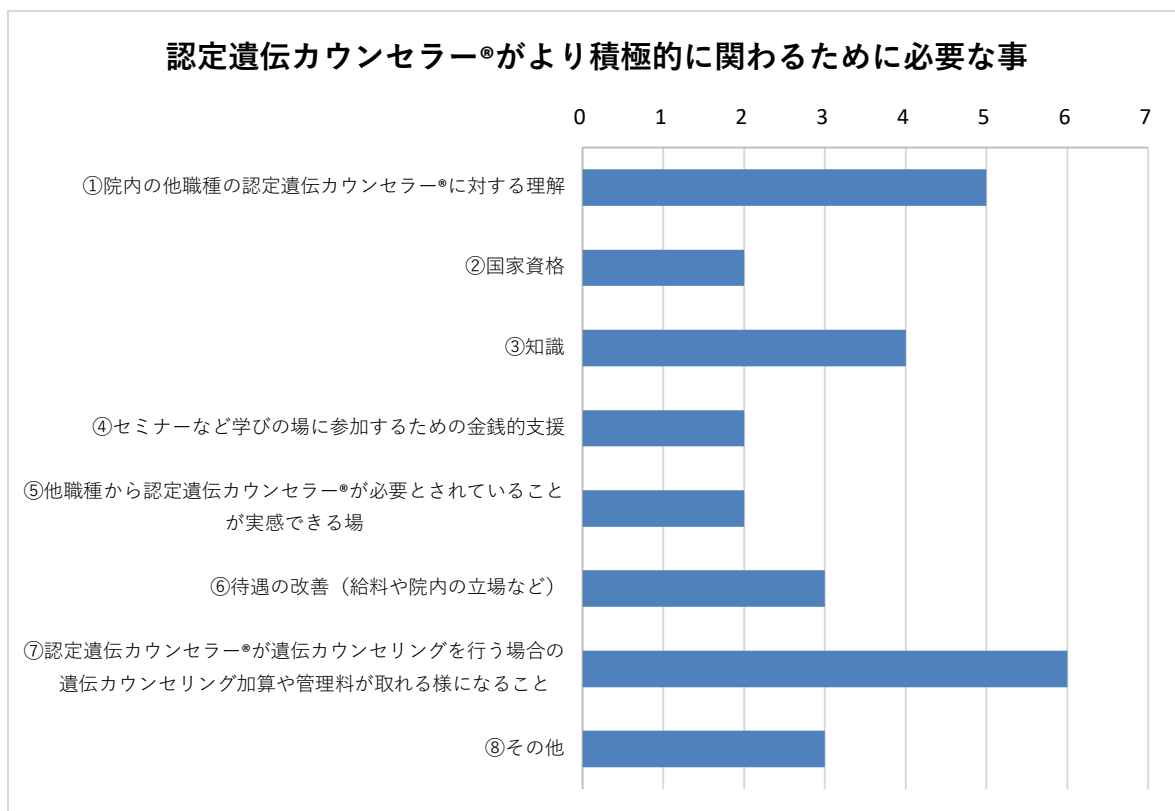
14であげた取り組みを行うために足りないもの(その他)
症例なしのため回答不可
がん・生殖医療に関する遺伝カウンセラー養成校での座学教育と臨床実習、教育者の養成



16. がん・生殖医療への取り組みも含め、遺伝医療に認定遺伝カウンセラー®がより積極的に関わるためにはどのような事が
必要だと思いますか。(複数回答可)

項目	件数
①院内の他職種の認定遺伝カウンセラー®に対する理解	5
②国家資格	2
③知識	4
④セミナーなど学びの場に参加するための金銭的支援	2
⑤他職種から認定遺伝カウンセラー®が必要とされていることが実感できる場	2
⑥待遇の改善(給料や院内の立場など)	3
⑦認定遺伝カウンセラー®が遺伝カウンセリングを行う場合の 遺伝カウンセリング加算や管理料が取れるようになること	6
⑧その他	3

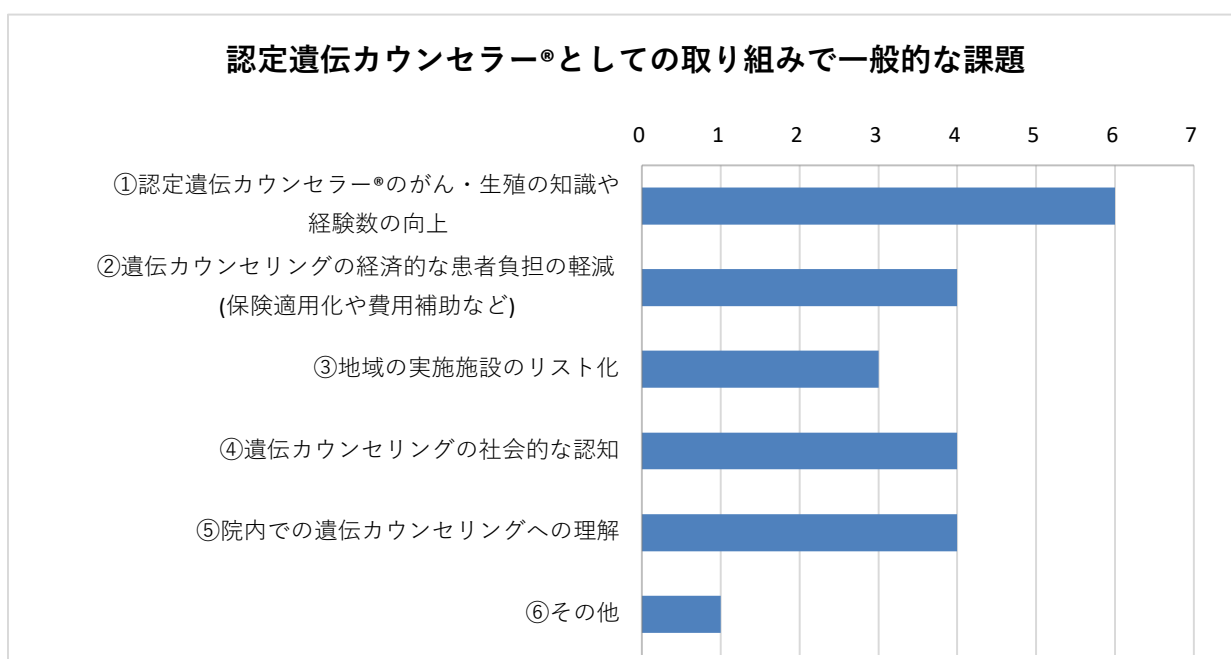
認定遺伝カウンセラー®がより積極的に関わるために必要な事(その他)
雇用の待遇向上
⑦がより認知度を高めてくれると考える
最新かつ正確な遺伝カウンセリング資料の提供、組織としての遺伝医療体制の整備、遺伝カウンセリングが収益につながる体制、遺伝医療に理解のある医師の存在



17. 認定遺伝カウンセラー®としてがん・生殖医療への取り組みで一般的にどのような事が課題だと思いますか。(複数回答可)

項目	件数
①認定遺伝カウンセラー®のがん・生殖の知識や経験数の向上	6
②遺伝カウンセリングの経済的な患者負担の軽減(保険適用化や費用補助など)	4
③地域の実施施設のリスト化	3
④遺伝カウンセリングの社会的な認知	4
⑤院内での遺伝カウンセリングへの理解	4
⑥その他	1

認定遺伝カウンセラー®としての取り組みで一般的な課題(その他)
認定遺伝生殖医療に関する遺伝カウンセリングが収益につながる

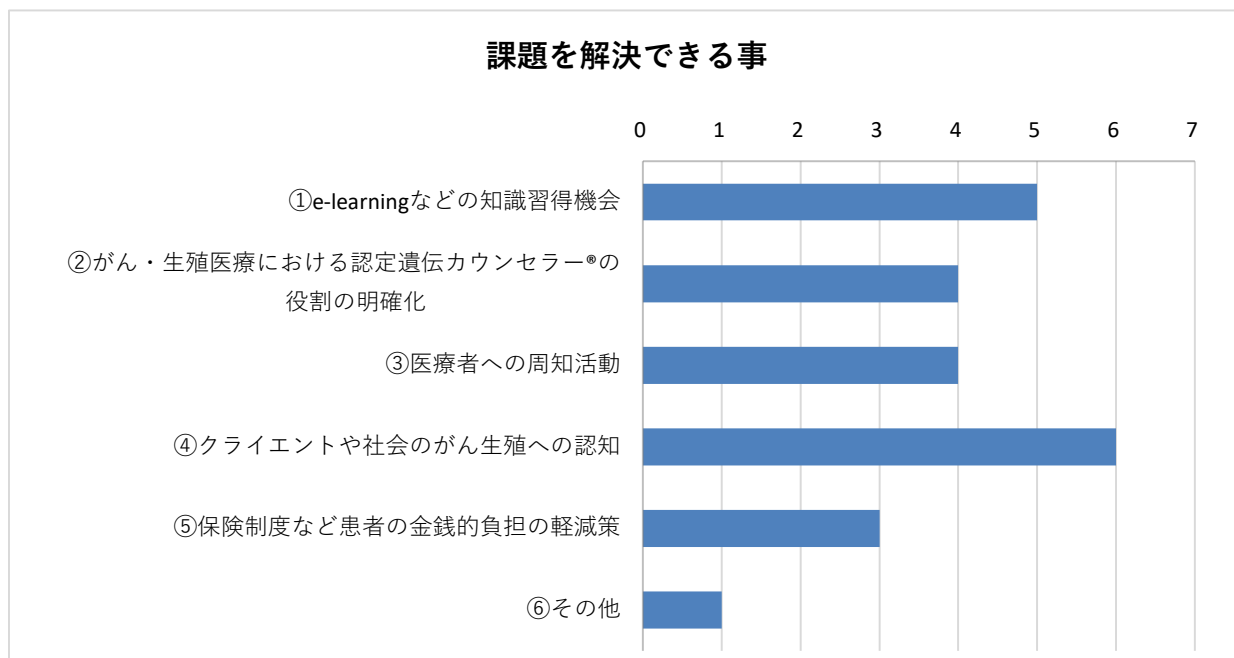


18. その課題はどのような事があると解決できますか。(複数回答可)

項目	件数
①e-learningなどの知識習得機会	5
②がん・生殖医療における認定遺伝カウンセラー®の役割の明確化	4
③医療者への周知活動	4
④クライアントや社会のがん生殖への認知	6
⑤保険制度など患者の金銭的負担の軽減策	3
⑥その他	1

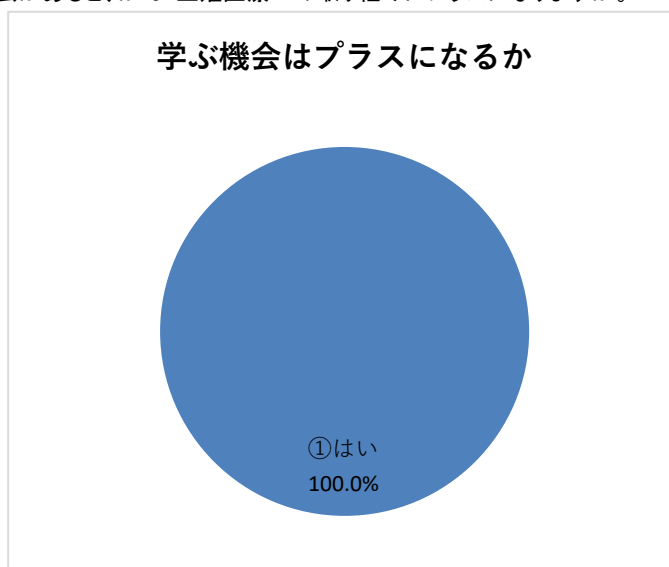
課題を解決できる事(その他)

※その他の記入がありませんでした。



19. 知識面ではがん治療や生殖補助医療について学ぶ機会があると、がん・生殖医療への取り組みにプラスになりますか。

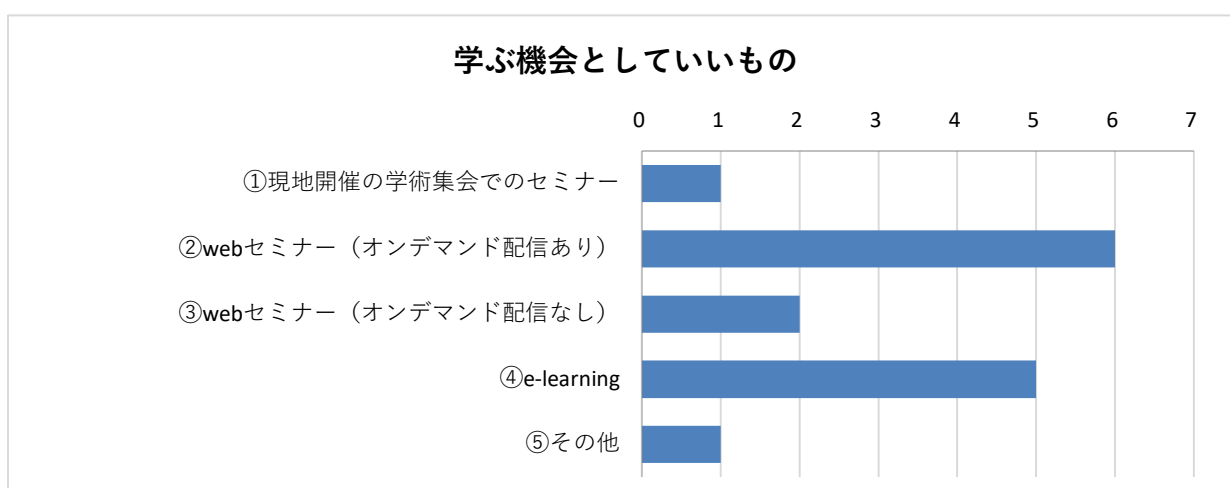
項目	件数	%
合計	11	100.0%
①はい	11	100.0%
②いいえ	0	0.0%
③どちらでもない	0	0.0%
無回答	0	0.0%



20. 学ぶ機会としてはどのようなものがありますか。(複数回答可)

項目	件数
①現地開催の学術集会でのセミナー	1
②webセミナー(オンデマンド配信あり)	6
③webセミナー(オンデマンド配信なし)	2
④e-learning	5
⑤その他	1

学ぶ機会としていいもの(その他)
遺伝カウンセラー養成校の座学教育と臨床実習

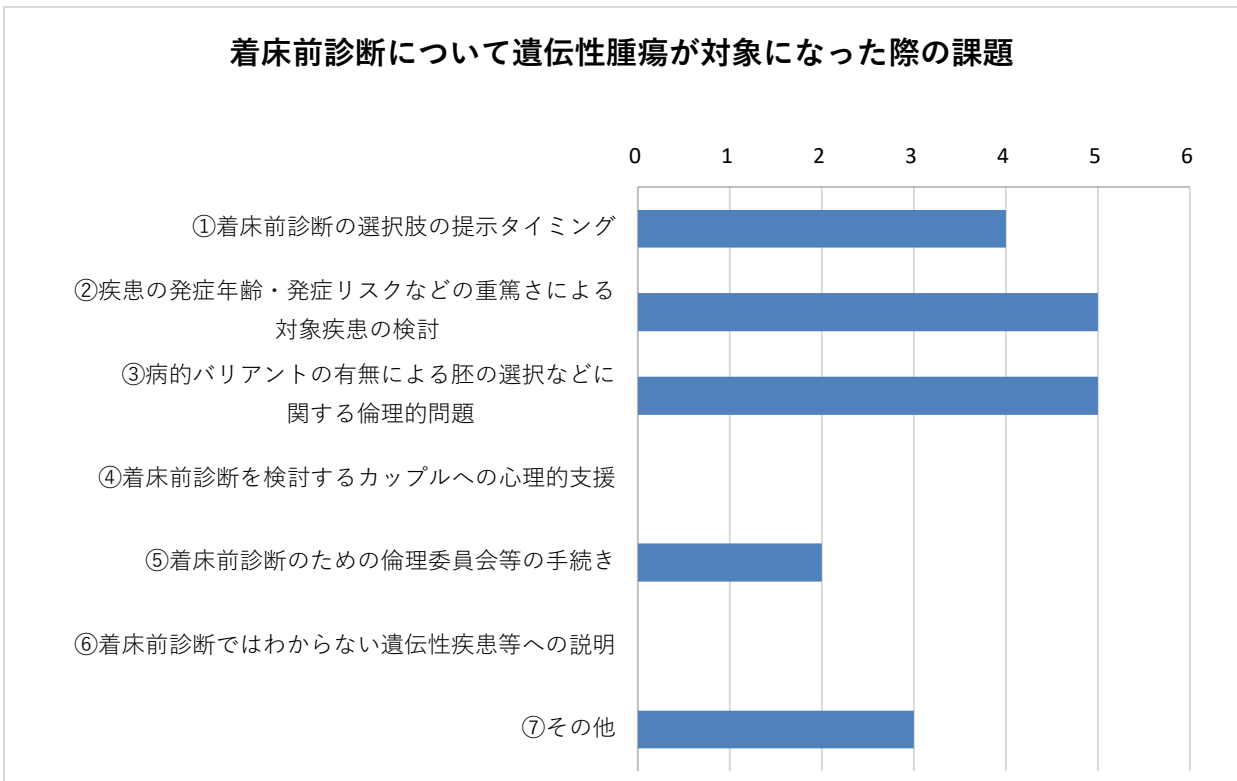


21. 今後、着床前診断について遺伝性腫瘍が対象になった際にかん・生殖医療の分野でどのような課題が上がると思いますか。

(特に懸念されるもの上位3つをお答え下さい)

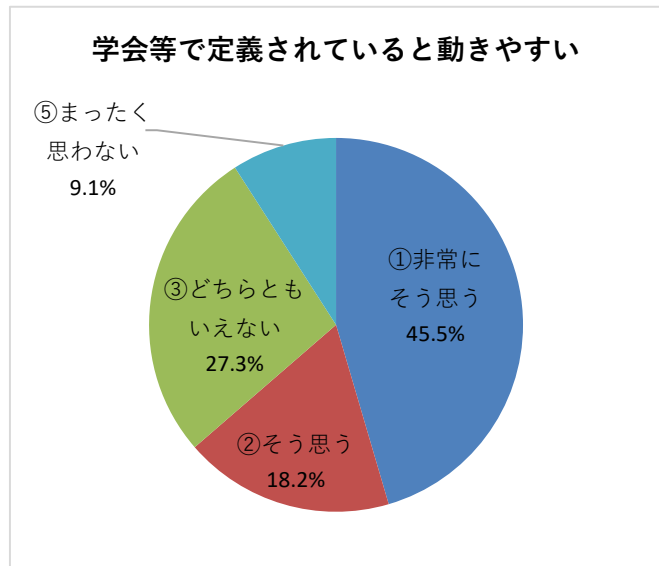
項目	件数
①着床前診断の選択肢の提示タイミング	4
②疾患の発症年齢・発症リスクなどの重篤さによる対象疾患の検討	5
③病的バリエーションの有無による胚の選択などに関する倫理的問題	5
④着床前診断を検討するカップルへの心理的支援	0
⑤着床前診断のための倫理委員会等の手続き	2
⑥着床前診断ではわからない遺伝性疾患等への説明	0
⑦その他	3

着床前診断について遺伝性腫瘍が対象になった際の課題(その他)
重篤であるかを誰が判断し、決めていくのか
サーベイランスや遺伝学的検査の保険収載など、まずは当事者に対して社会的な補償や法整備が必要ではないかと考える
将来育児希望だがパートナーがいない人への支援



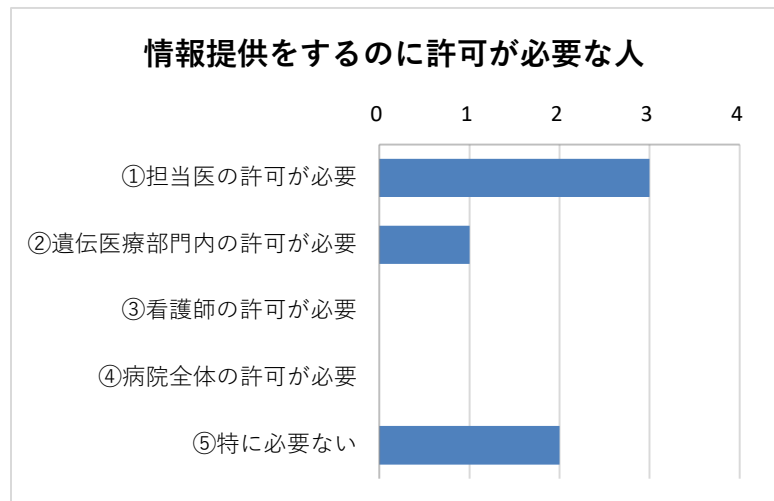
22. がん・生殖医療の中で認定遺伝カウンセラー®の働きが学会等で定義されていると院内で動きやすいですか。

項目	件数	%
合計	11	100.0%
①非常にそう思う	5	45.5%
②そう思う	2	18.2%
③どちらともいえない	3	27.3%
④そう思わない	0	0.0%
⑤まったく思わない	1	9.1%
無回答	0	0.0%



23. がん・生殖医療についての情報提供をするのに院内の誰かの許可が必要ですか。(複数回答可)

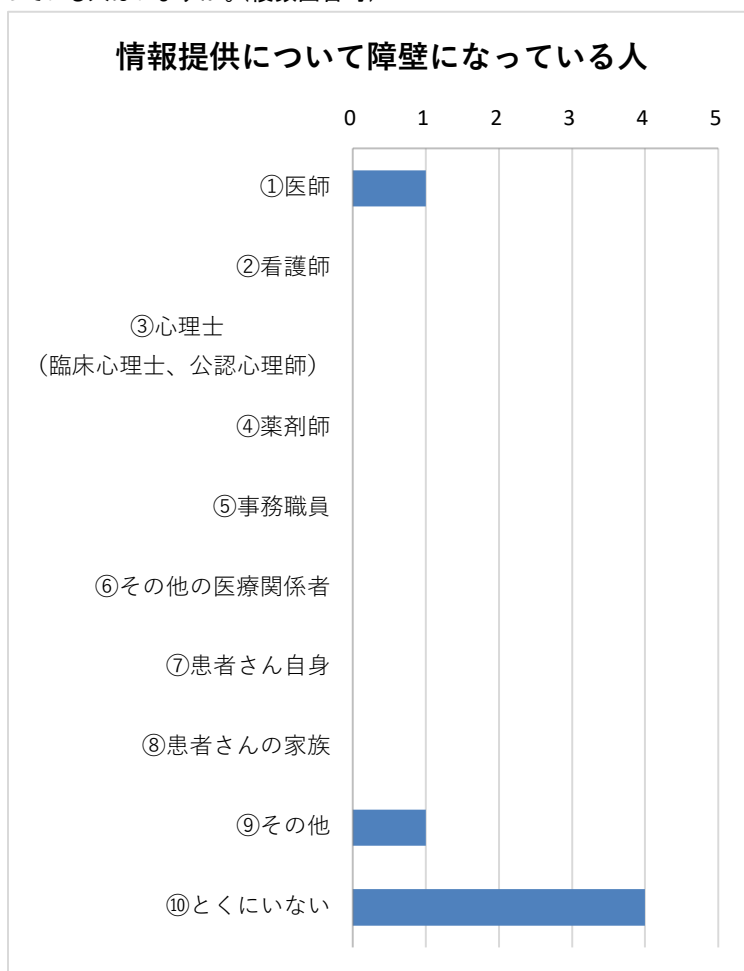
項目	件数
①担当医の許可が必要	3
②遺伝医療部門内の許可が必要	1
③看護師の許可が必要	0
④病院全体の許可が必要	0
⑤特に必要ない	2



24. がん・生殖医療の情報提供について障壁になっている人はいますか。(複数回答可)

項目	件数
①医師	1
②看護師	0
③心理士 (臨床心理士、公認心理師)	0
④薬剤師	0
⑤事務職員	0
⑥その他の医療関係者	0
⑦患者さん自身	0
⑧患者さんの家族	0
⑨その他	1
⑩とくにいない	4

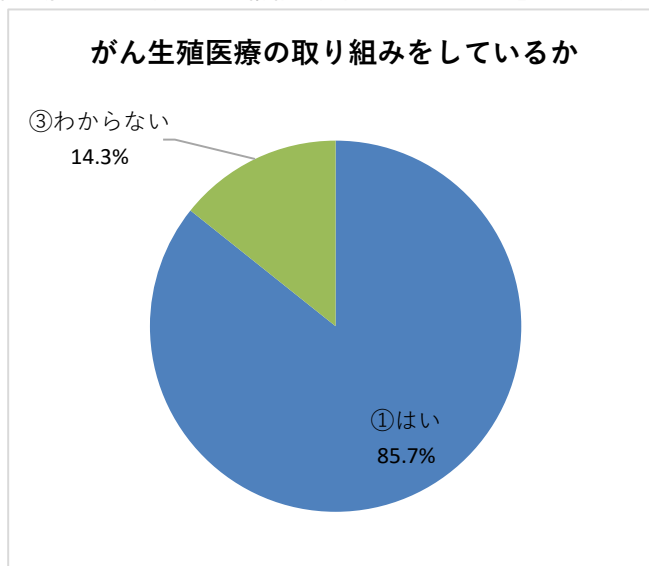
情報提供について障壁になっている人(その他)
症例なしのため回答不可



「がん・生殖における遺伝カウンセラーの役割に関する実態調査(2次調査)」 アンケート集計【がん・生殖経験なし】

1. あなたの勤務先(複数あればメインの施設)ではがん生殖医療について何かしら(情報提供含む)の取り組みをしていますか。

項目	件数	%
合計	7	100.0%
①はい	6	85.7%
②いいえ	0	0.0%
③わからない	1	14.3%
無回答	0	0.0%



2-1. 質問1ではいと回答いただいた方に質問です。がん・生殖医療についてあなたの勤務先(複数あればメインの施設)ではどのような取り組みをしていますか。(複数回答可)

項目	件数
①がん・生殖医療についての情報提供	0
②卵子凍結保存	0
③精子凍結保存	0
④受精卵凍結保存	0
⑤卵巣組織凍結保存	0
⑥他施設の紹介	0
⑦不明	0
⑧その他	0

勤務先の取組み(その他)

※その他の記入がありませんでした。

勤務先の取組み

0

1

①がん・生殖医療についての情報提供

②卵子凍結保存

③精子凍結保存

④受精卵凍結保存

⑤卵巣組織凍結保存

⑥他施設の紹介

⑦不明

⑧その他

2-2. がん・生殖医療についてあなたの勤務先(複数あればメインの施設)ではどのような情報提供をしていますか。

(複数回答可)

項目	件数
①がん治療により不妊に陥るリスク	0
②凍結保存(卵子・精子・受精卵・卵巣組織)の方法	0
③費用・助成金	0
④挙児獲得率	0
⑤その他	0

勤務先の情報提供(その他)

※その他の記入がありませんでした。

勤務先の情報提供

0

1

①がん治療により不妊に陥るリスク

②凍結保存(卵子・精子・受精卵・卵巣組織)の方法

③費用・助成金

④挙児獲得率

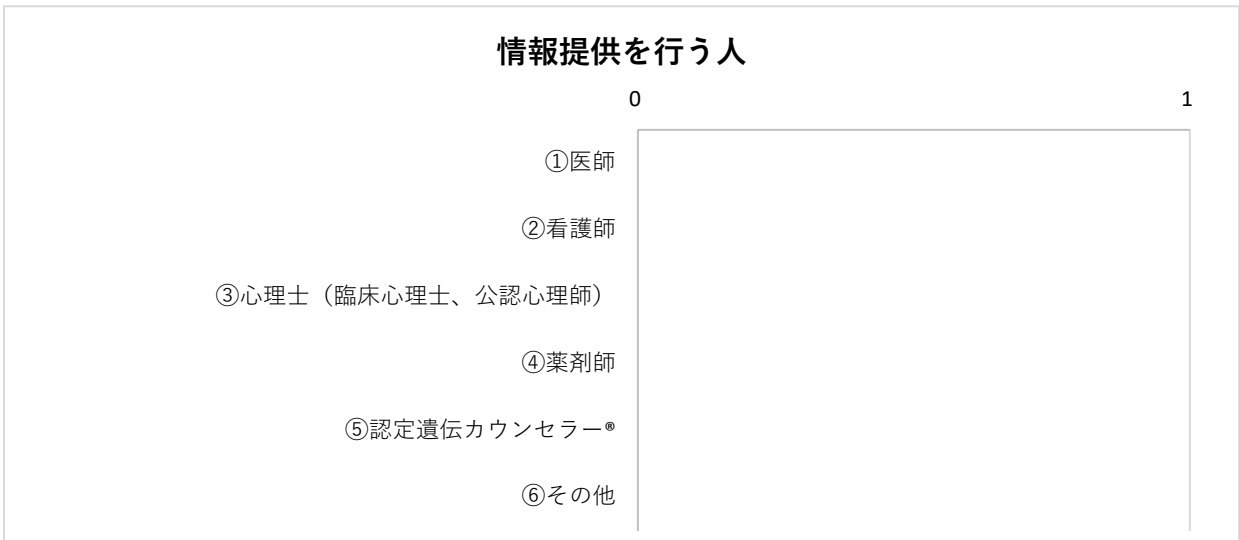
⑤その他

2-3. がん・生殖医療の情報提供は誰が行う事が多いですか。(複数回答可)

項目	件数
①医師	0
②看護師	0
③心理士(臨床心理士、公認心理師)	0
④薬剤師	0
⑤認定遺伝カウンセラー®	0
⑥その他	0

情報提供を行う人(その他)

※その他の記入がありませんでした。



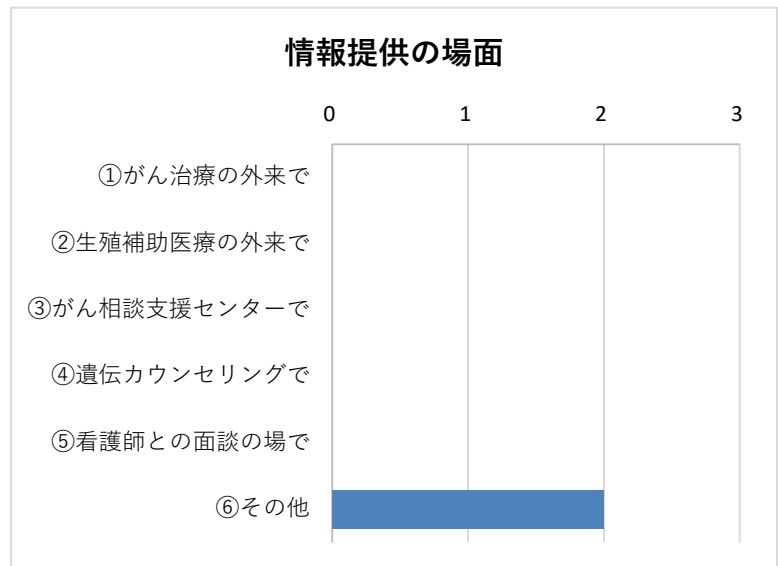
2-4. がん・生殖の情報提供はどのような場面で行う事が多いですか。(複数回答可)

項目	件数
①がん治療の外来で	0
②生殖補助医療の外来で	0
③がん相談支援センターで	0
④遺伝カウンセリングで	0
⑤看護師との面談の場で	0
⑥その他	2

情報提供の場面(その他)

臨床心理士の個別外来

がん治療の外来で簡単な情報提供を行い、詳細を生殖補助外来で行う。補足を看護師の面談で。



3. 質問1でいいえと回答いただいた方に質問です。取り組んでいない理由について教えてください。(複数回答可)

項目	件数
①がん・生殖医療について知らなかったから	0
②医師などの医療者が興味がないから	0
③患者さんから問い合わせがないから	0
④自施設で取り組めないから	0
⑤その他	0

取り組んでいない理由(その他)

※その他の記入がありませんでした。

取り組んでいない理由

0 1

①がん・生殖医療について知らなかったから

②医師などの医療者が興味がないから

③患者さんから問い合わせがないから

④自施設で取り組めないから

⑤その他

4. 質問1でわからないと回答いただいた方に質問です。わからない理由について教えてください。(複数回答可)

項目	件数
①がん・生殖医療について知らなかったから	0
②院内の取り組みについて知らないから	0
③その他	0

わからない理由(その他)

※その他の記入がありませんでした。

わからない理由

0 1

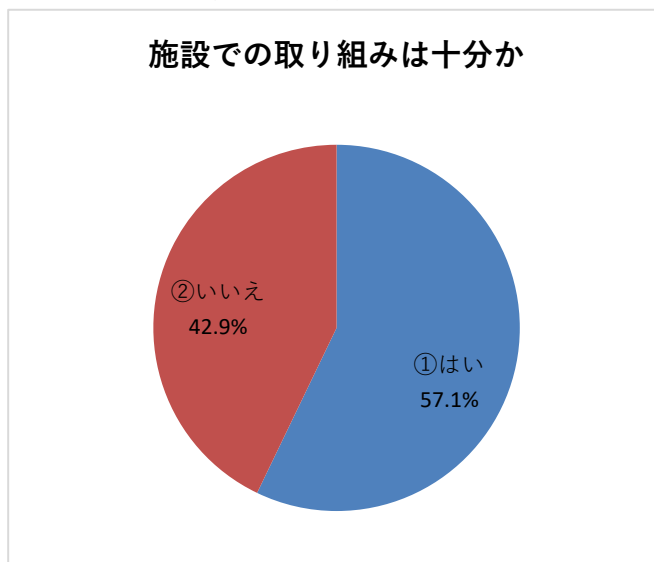
①がん・生殖医療について知らなかったから

②院内の取り組みについて知らないから

③その他

5. あなたは、現在の施設でのがん・生殖医療における取り組みについて十分だと思いますか。

項目	件数	%
合計	7	100.0%
①はい	4	57.1%
②いいえ	3	42.9%
無回答	0	0.0%



6. 質問5でいいえと答えた方に質問です。どの様な取り組みや情報提供が足りないと考えますか。(複数回答可)

項目	件数
①がん治療により不妊に陥るリスク	0
②凍結保存(卵子・精子・受精卵・卵巣組織)の方法	0
③費用や助成金	0
④挙児獲得率	0
⑤実施可能施設の紹介	0
⑥遺伝性腫瘍	0
⑦心理支援について	0
⑧その他	0

どの様な取り組みや情報提供が足りないか(その他)

※その他の記入がありませんでした。

どの様な取り組みや情報提供が足りないか

0

1

①がん治療により不妊に陥るリスク

②凍結保存(卵子・精子・受精卵・卵巣組織)の方法

③費用や助成金

④挙児獲得率

⑤実施可能施設の紹介

⑥遺伝性腫瘍

⑦心理支援について

⑧その他

7. 6であげた取り組みを行うためには何が足りない、もしくは充足したらいいと考えますか。(複数回答可)

項目	件数
①知識	0
②人員	0
③院内のがん・生殖医療への理解	0
④認定遺伝カウンセラー®の働きへの理解	0
⑤その他	0

6であげた取り組みを行うために足りないもの(その他)

※その他の記入がありませんでした。

6であげた取り組みを行うために足りないもの

0
1

①知識

②人員

③院内のがん・生殖医療への理解

④認定遺伝カウンセラー®の働きへの理解

⑤その他

8. がん・生殖医療への取り組みも含め、遺伝医療に認定遺伝カウンセラー®がより積極的に関わるためにはどのような事が
必要だと思いますか。(複数回答可)

項目	件数
①院内の他職種の認定遺伝カウンセラー®に対する理解	0
②国家資格	0
③知識	0
④セミナーなど学びの場に参加するための金銭的支援	0
⑤他職種から認定遺伝カウンセラー®が必要とされていることが実感できる場	0
⑥待遇の改善(給料や院内の立場など)	0
⑦認定遺伝カウンセラー®が遺伝カウンセリングを行う場合の 遺伝カウンセリング加算や管理料が取れるようになること	0
⑧その他	1

認定遺伝カウンセラー®がより積極的に関わるために必要な事(その他)
認定遺伝カウンセラー®ががん・生殖医療に関わる他職種の方の関わりを理解すること

認定遺伝カウンセラー®がより積極的に関わるために必要な事

	0	1	2
①院内の他職種の認定遺伝カウンセラー®に対する理解			
②国家資格			
③知識			
④セミナーなど学びの場に参加するための金銭的支援			
⑤他職種から認定遺伝カウンセラー®が必要とされていること が実感できる場			
⑥待遇の改善(給料や院内の立場など)			
⑦認定遺伝カウンセラー®が遺伝カウンセリングを行う場合の 遺伝カウンセリング加算や管理料が取れるようになること			
⑧その他			

9. がん・生殖医療において認定遺伝カウンセラー®は情報提供以外にどのような事が行えると思いますか。(複数回答可)

項目	件数
①実施可能施設への紹介	0
②院内の調整	0
③社会への啓発	0
④クライアントの心理支援	0
⑤その他	0

情報提供以外に行える事(その他)

※その他の記入がありませんでした。

情報提供以外に行える事

0 1

①実施可能施設への紹介

②院内の調整

③社会への啓発

④クライアントの心理支援

⑤その他

10. それができるようになるにはどのような課題がありますか。(複数回答可)

項目	件数
①認定遺伝カウンセラー®のがん生殖の経験数の向上	0
②遺伝カウンセリングの経済的な患者負担の軽減 (保険適用化や費用補助など)	0
③地域の実施施設のリスト化	0
④遺伝カウンセリングの社会的な認知	0
⑤院内での遺伝カウンセリングへの理解	0
⑥その他	1

情報提供以外に行える事の課題(その他)

がん・生殖医療ではどうしても時間的制約が生まれるため、関わる多職種カンファレンスなどを通してスタッフ間でも情報共有できるような院内システムが必要

情報提供以外に行える事の課題

0 1 2

①認定遺伝カウンセラー®のがん生殖の経験数の向上

②遺伝カウンセリングの経済的な患者負担の軽減
(保険適用化や費用補助など)

③地域の実施施設のリスト化

④遺伝カウンセリングの社会的な認知

⑤院内での遺伝カウンセリングへの理解

⑥その他

11. どのような事があると解決できますか。(複数回答可)

項目	件数
①e-learningなどの知識習得機会	0
②がん・生殖医療における認定遺伝カウンセラー®の役割の明確化	0
③医療者への周知活動	0
④クライアントや社会のがん生殖への認知	0
⑤保険制度など患者の金銭的負担の軽減策	0
⑥その他	0

課題を解決できる事(その他)

※その他の記入がありませんでした。

課題を解決できる事

0

1

①e-learningなどの知識習得機会

②がん・生殖医療における認定遺伝カウンセラー®の
役割の明確化

③医療者への周知活動

④クライアントや社会のがん生殖への認知

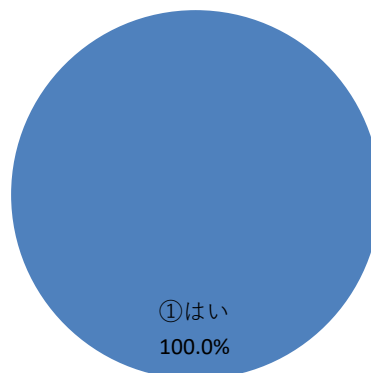
⑤保険制度など患者の金銭的負担の軽減策

⑥その他

12. 知識面ではがん治療や生殖補助医療について学ぶ機会があると、がん・生殖医療への取り組みにプラスになりますか。

項目	件数	%
合計	7	100.0%
①はい	7	100.0%
②いいえ	0	0.0%
③どちらでもない	0	0.0%
無回答	0	0.0%

学ぶ機会はプラスになるか



13. 学ぶ機会としてはどのようなものがありますか。(複数回答可)

項目	件数
①現地開催の学術集会でのセミナー	0
②webセミナー(オンデマンド配信あり)	0
③webセミナー(オンデマンド配信なし)	0
④e-learning	0
⑤その他	0

学ぶ機会としていいもの(その他)

※その他の記入がありませんでした。

学ぶ機会としていいもの

0
1

①現地開催の学術集会でのセミナー

②webセミナー (オンデマンド配信あり)

③webセミナー (オンデマンド配信なし)

④e-learning

⑤その他

14. 今後、着床前診断について遺伝性腫瘍が対象になった際にかん・生殖医療の分野でどのような課題が上がると思いますか。
特に懸念されるもの上位3つをお答え下さい。

項目	件数
①着床前診断の選択肢の提示タイミング	0
②疾患の発症年齢・発症リスクなどの重篤さによる対象疾患の検討	0
③病的バリエーションの有無による胚の選択などに関する倫理的問題	0
④着床前診断を検討するカップルへの心理的支援	0
⑤着床前診断のための倫理委員会等の手続き	0
⑥着床前診断ではわからない遺伝性疾患等への説明	0
⑦その他	1

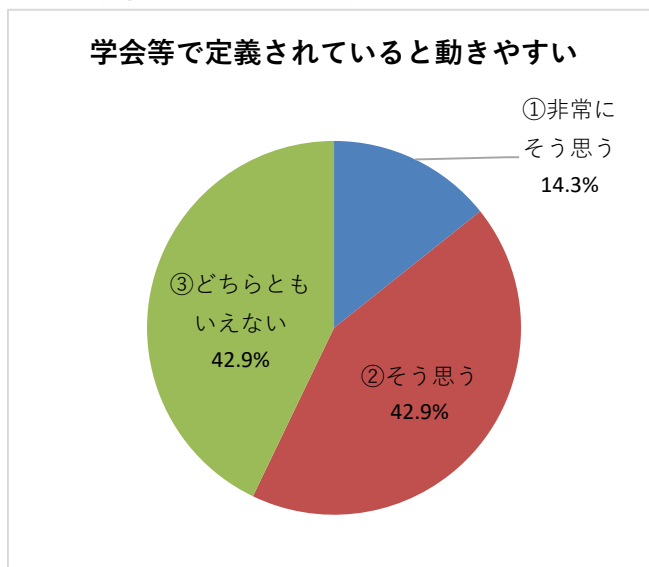
着床前診断について遺伝性腫瘍が対象になった際の課題(その他)
がん・生殖は時間のない中で検討することが多い中、遺伝のことも、着床前診断のことも考えるには時間が足りない可能性がある。

着床前診断について遺伝性腫瘍が対象になった際の課題

	0	1	2
①着床前診断の選択肢の提示タイミング			
②疾患の発症年齢・発症リスクなどの重篤さによる対象疾患の検討			
③病的バリエーションの有無による胚の選択などに関する倫理的問題			
④着床前診断を検討するカップルへの心理的支援			
⑤着床前診断のための倫理委員会等の手続き			
⑥着床前診断ではわからない遺伝性疾患等への説明			
⑦その他			

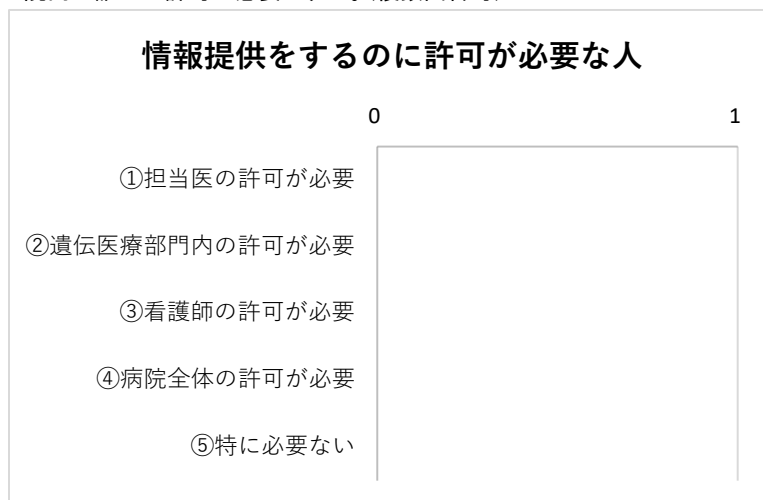
15. がん・生殖医療の中で認定遺伝カウンセラー®の働きが学会等で定義されていると院内で動きやすいですか。

項目	件数	%
合計	7	100.0%
①非常に思う	1	14.3%
②そう思う	3	42.9%
③どちらともいえない	3	42.9%
④そう思わない	0	0.0%
⑤まったく思わない	0	0.0%
無回答	0	0.0%



16. がん・生殖医療についての情報提供をするのに院内の誰かの許可が必要ですか。(複数回答可)

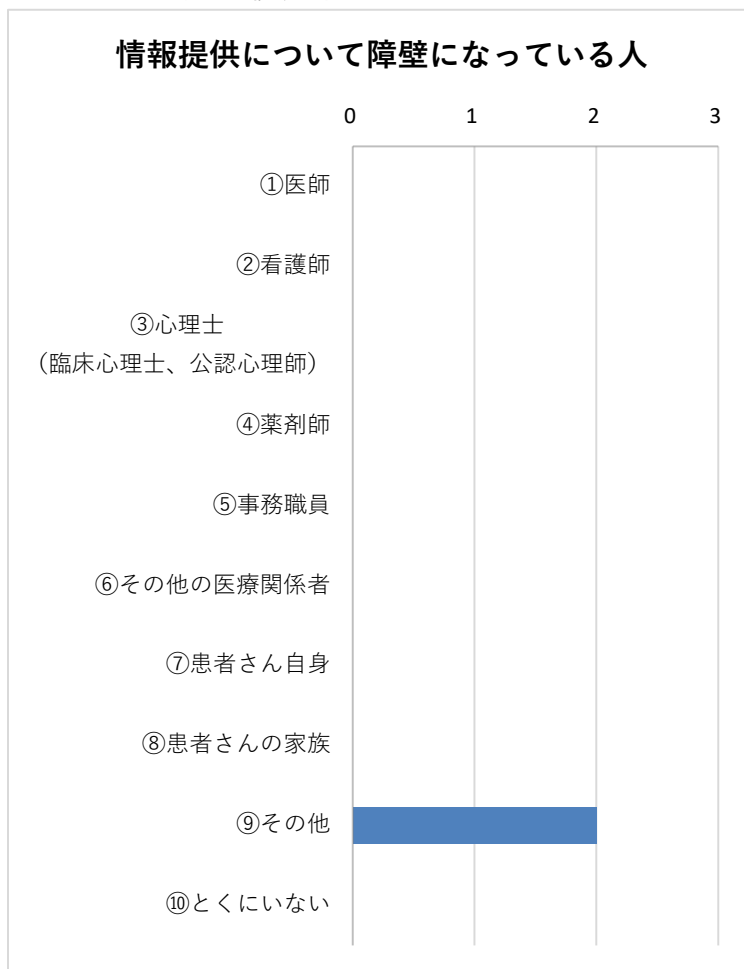
項目	件数
①担当医の許可が必要	0
②遺伝医療部門内の許可が必要	0
③看護師の許可が必要	0
④病院全体の許可が必要	0
⑤特に必要ない	0



17. がん・生殖医療の情報提供について障壁になっている人はいますか。(複数回答可)

項目	件数
①医師	0
②看護師	0
③心理士 (臨床心理士、公認心理師)	0
④薬剤師	0
⑤事務職員	0
⑥その他の医療関係者	0
⑦患者さん自身	0
⑧患者さんの家族	0
⑨その他	2
⑩とくにいない	0

情報提供について障壁になっている人(その他)
生殖は生殖でやろうとする医師の姿勢。 AYA世代のがん患者はもれなく遺伝カウンセリングも行うので、連携して行えると良いと思う
わからない



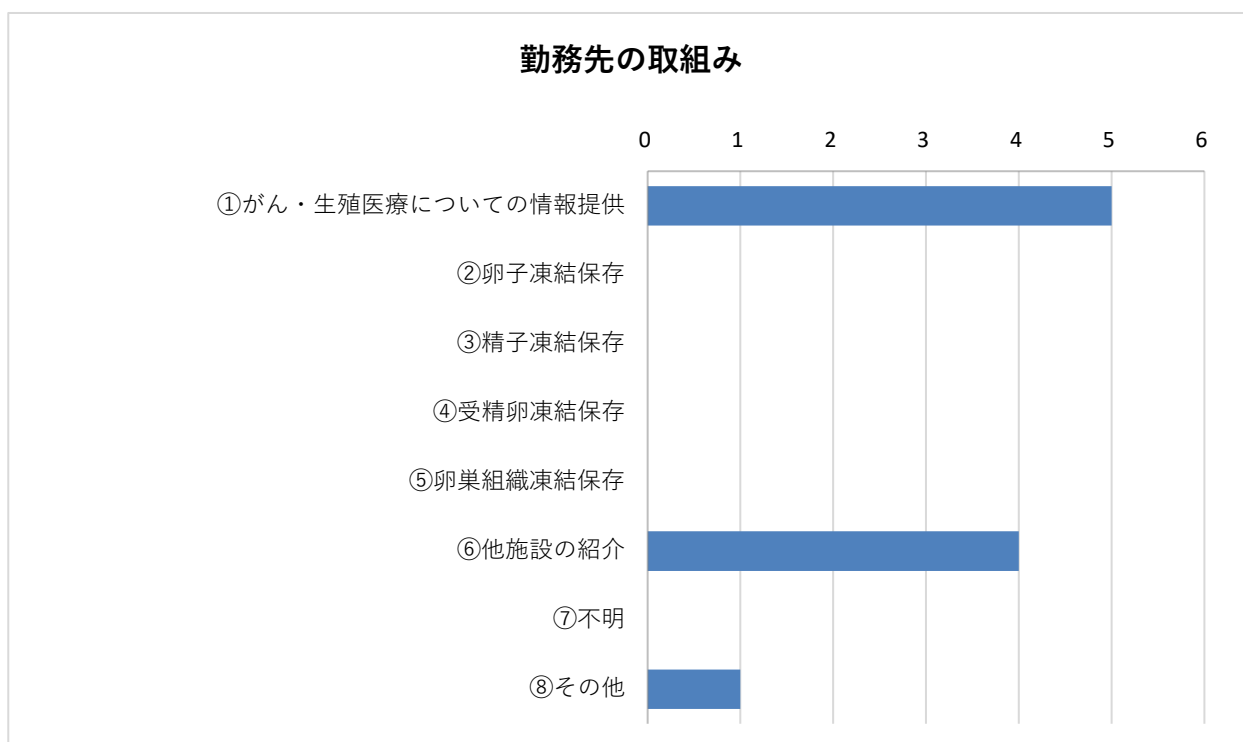
「がん・生殖における遺伝カウンセラーの役割に関する実態調査(2次調査)」 アンケート集計【がん生殖経験ありなし合算】

1. がん・生殖医療についてあなたの勤務先(複数あればメインの施設)ではどのような取り組みをしていますか。(複数回答可)

項目	件数
①がん・生殖医療についての情報提供	5
②卵子凍結保存	0
③精子凍結保存	0
④受精卵凍結保存	0
⑤卵巢組織凍結保存	0
⑥他施設の紹介	4
⑦不明	0
⑧その他	1

勤務先の取組み(その他)

※その他の記入がありませんでした。



2. がん・生殖医療についてあなたの勤務先(複数あればメインの施設)ではどのような情報提供をしていますか。

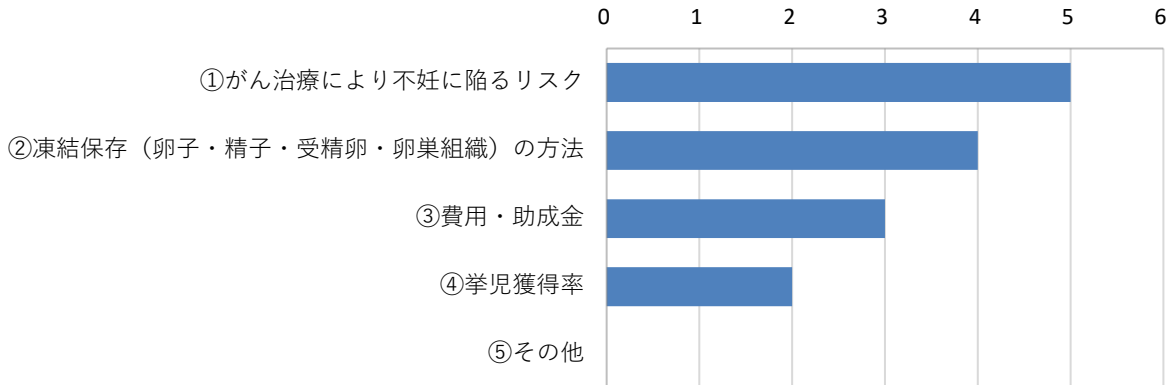
(複数回答可)

項目	件数
①がん治療により不妊に陥るリスク	5
②凍結保存(卵子・精子・受精卵・卵巢組織)の方法	4
③費用・助成金	3
④挙児獲得率	2
⑤その他	0

勤務先の情報提供(その他)

※その他の記入がありませんでした。

勤務先の情報提供



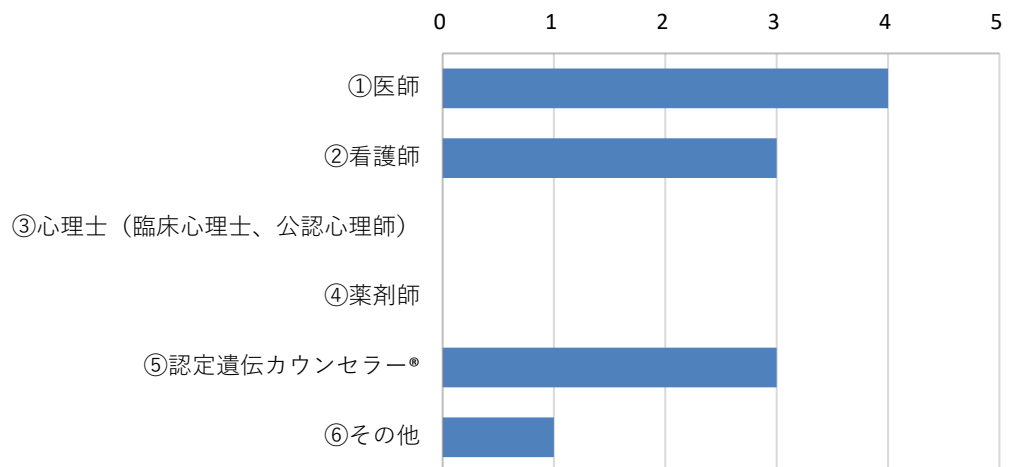
3. がん・生殖医療の情報提供は誰が行う事が多いですか。(複数回答可)

項目	件数
①医師	4
②看護師	3
③心理士(臨床心理士、公認心理師)	0
④薬剤師	0
⑤認定遺伝カウンセラー®	3
⑥その他	1

情報提供を行う人(その他)

※その他の記入がありませんでした。

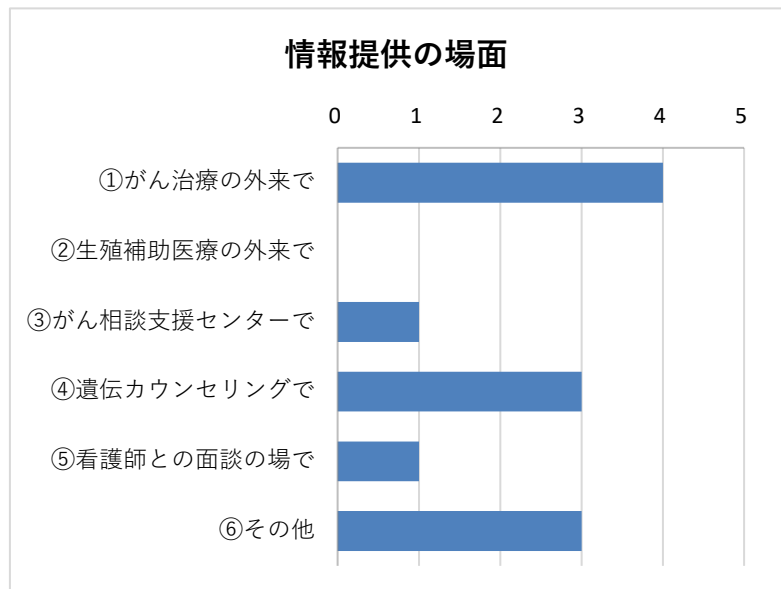
情報提供を行う人



4. がん・生殖の情報提供はどのような場面で行う事が多いですか。(複数回答可)

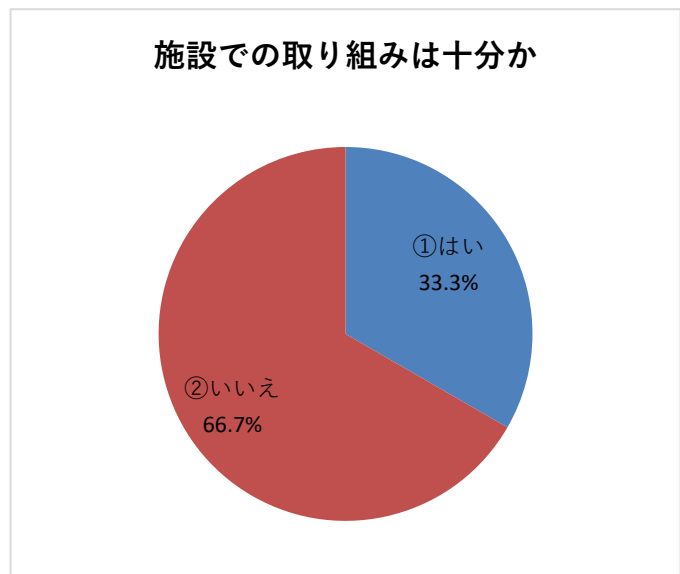
項目	件数
①がん治療の外来で	4
②生殖補助医療の外来で	0
③がん相談支援センターで	1
④遺伝カウンセリングで	3
⑤看護師との面談の場で	1
⑥その他	3

情報提供の場面(その他)
臨床心理士の個別外来
がん治療の外来で簡単な情報提供を行い、詳細を生殖補助外来で行う。補足を看護師の面談で。
症例なし



5. あなたは、現在の施設でのがん・生殖医療における取り組みについて十分であると思いますか。

項目	件数	%
合計	18	100.0%
①はい	6	33.3%
②いいえ	12	66.7%
無回答	0	0.0%



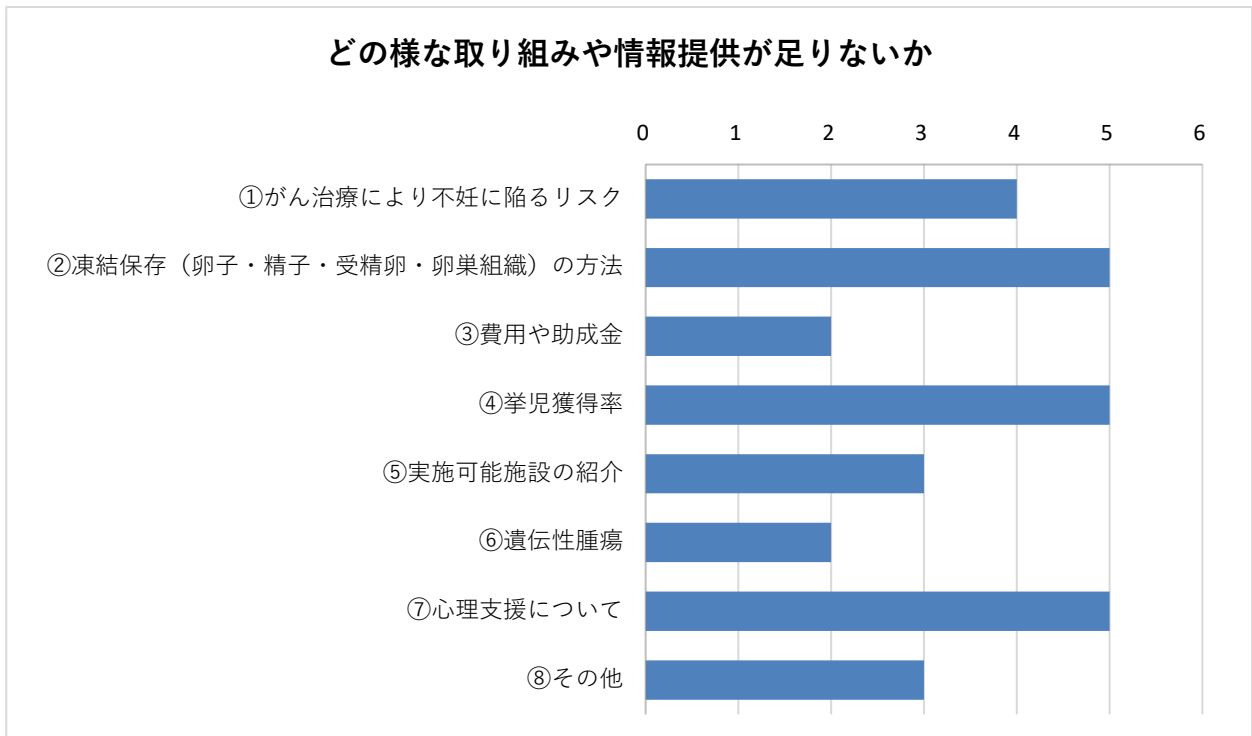
6. どの様な取り組みや情報提供が足りないと考えますか。(複数回答可)

項目	件数
①がん治療により不妊に陥るリスク	4
②凍結保存(卵子・精子・受精卵・卵巣組織)の方法	5
③費用や助成金	2
④挙児獲得率	5
⑤実施可能施設の紹介	3
⑥遺伝性腫瘍	2
⑦心理支援について	5
⑧その他	3

どの様な取り組みや情報提供が足りないか(その他)
院内での認知があまりされていない

症例なし

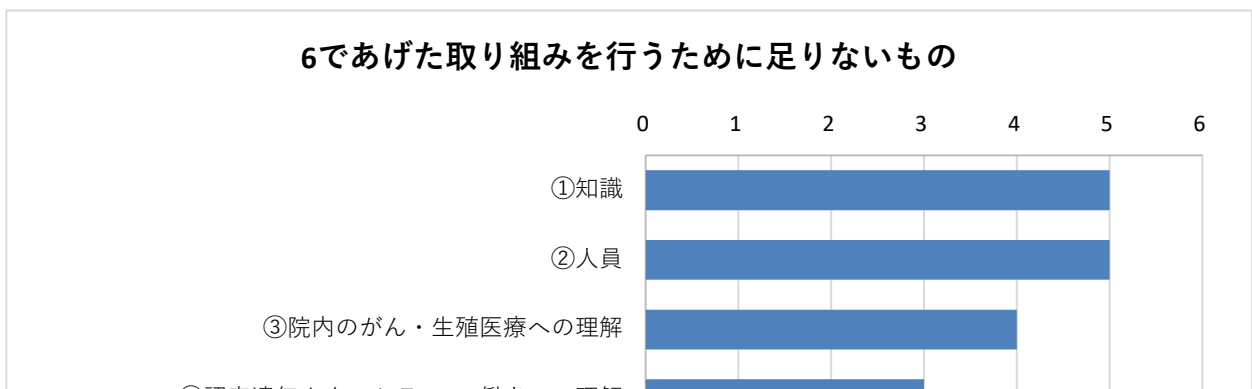
がん・生殖医療に関する基礎知識



7. 6であげた取り組みを行うためには何が足りない、もしくは充足したらいいと考えますか。（複数回答可）

項目	件数
①知識	5
②人員	5
③院内のがん・生殖医療への理解	4
④認定遺伝カウンセラー®の働きへの理解	3
⑤その他	2

6であげた取り組みを行うために足りないもの（その他）
症例なしのため回答不可
がん・生殖医療に関する遺伝カウンセラー養成校での座学教育と臨床実習、教育者の養成



(4)認定遺伝カウンセラー®の働きへの理解

⑤その他

8. がん・生殖医療への取り組みも含め、遺伝医療に認定遺伝カウンセラー®がより積極的に関わるためにはどのような事が
必要だと思いますか。(複数回答可)

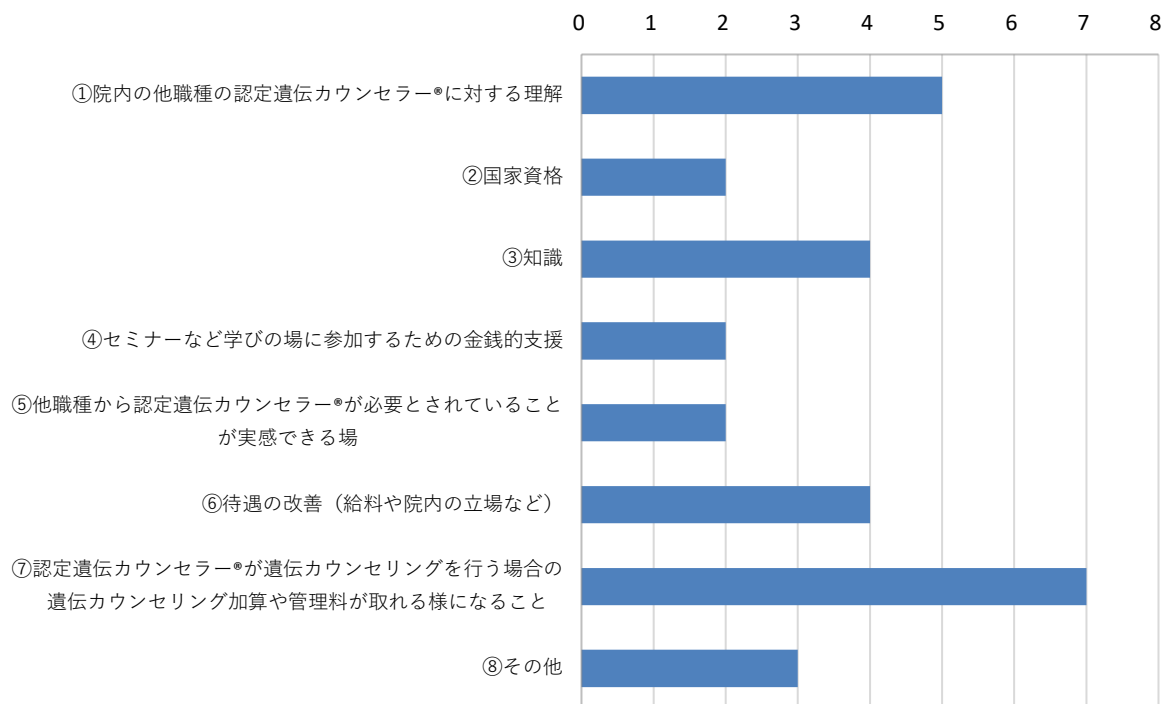
項目	件数
①院内の他職種の認定遺伝カウンセラー®に対する理解	5
②国家資格	2
③知識	4
④セミナーなど学びの場に参加するための金銭的支援	2
⑤他職種から認定遺伝カウンセラー®が必要とされていることが実感できる場	2
⑥待遇の改善(給料や院内の立場など)	4
⑦認定遺伝カウンセラー®が遺伝カウンセリングを行う場合の 遺伝カウンセリング加算や管理料が取れるようになること	7
⑧その他	3

認定遺伝カウンセラー®がより積極的に関わるために必要な事(その他)

認定遺伝カウンセラー®ががん・生殖医療に関わる他職種の方の関わりを理解すること

最新かつ正確な遺伝カウンセリング資料の提供、組織としての遺伝医療体制の整備、遺伝カウンセリングが収益につながる体制、遺伝医療に理解のある医師の存在

認定遺伝カウンセラー®がより積極的に関わるために必要な事

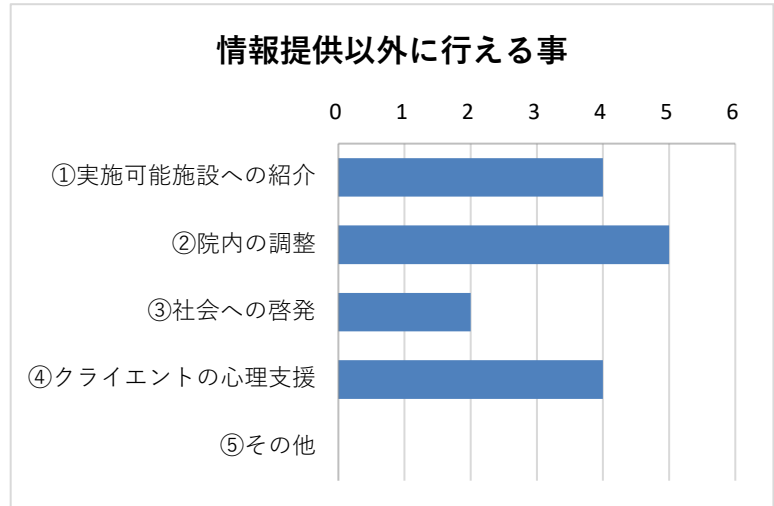


9. がん・生殖医療において認定遺伝カウンセラー®は情報提供以外にどのような事が行えると思いますか。(複数回答可)

項目	件数
①実施可能施設への紹介	4
②院内の調整	5
③社会への啓発	2
④クライアントの心理支援	4
⑤その他	0

情報提供以外に行える事(その他)

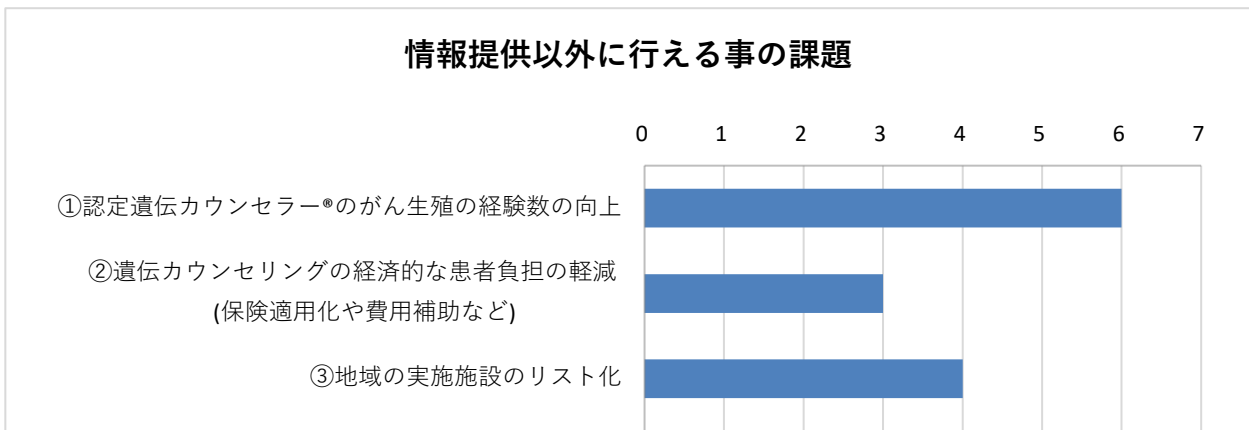
※その他の記入がありませんでした。

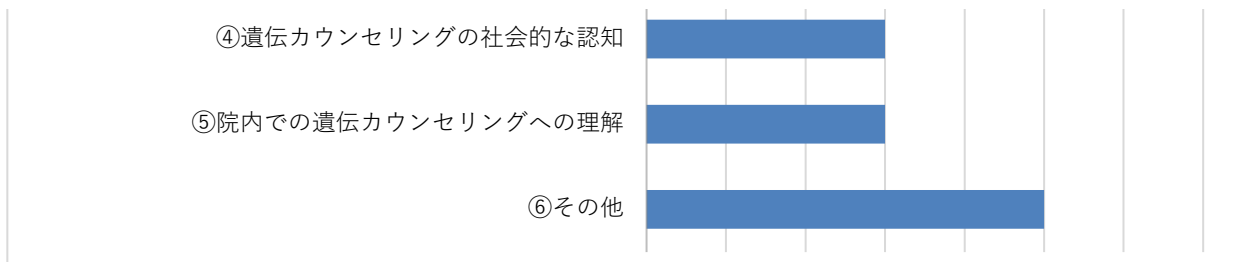


10. それができるようになるにはどのような課題がありますか。(複数回答可)

項目	件数
①認定遺伝カウンセラー®のがん生殖の経験数の向上	6
②遺伝カウンセリングの経済的な患者負担の軽減 (保険適用化や費用補助など)	3
③地域の実施施設のリスト化	4
④遺伝カウンセリングの社会的な認知	3
⑤院内での遺伝カウンセリングへの理解	3
⑥その他	5

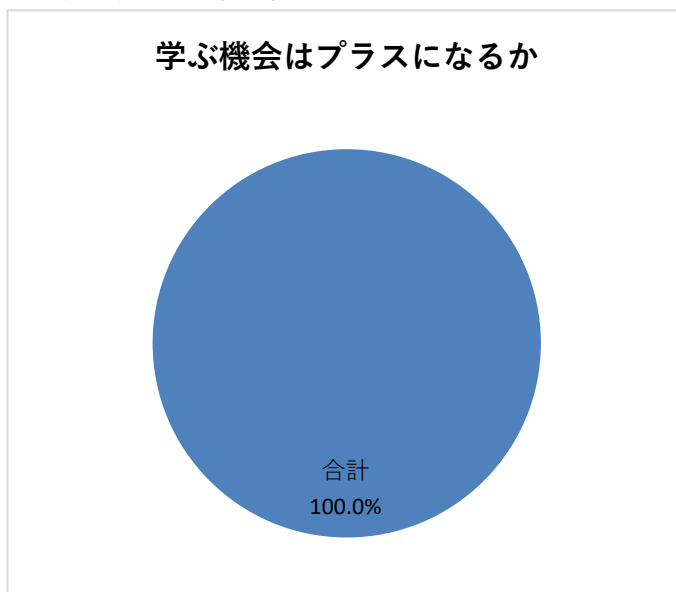
情報提供以外に行える事の課題(その他)
がん・生殖医療ではどうしても時間的制約が生まれるため、関わる多職種カンファレンスなどを通してスタッフ間でも情報共有できるような院内システムが必要
認定遺伝カウンセラー
職域の明確化
遺伝カウンセリングの場で、遺伝カウンセラーによる情報提供が可能であることを癌に関わる医療従事者に理解してもらうこと
検査外の遺伝カウンセリングに対する加算





11. 知識面ではがん治療や生殖補助医療について学ぶ機会があると、がん・生殖医療への取り組みにプラスになりますか。

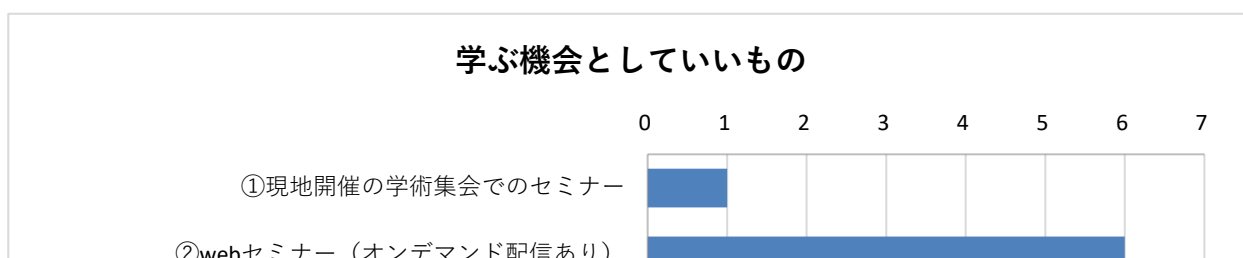
項目	件数	%
合計	18	100.0%
①はい	18	100.0%
②いいえ	0	0.0%

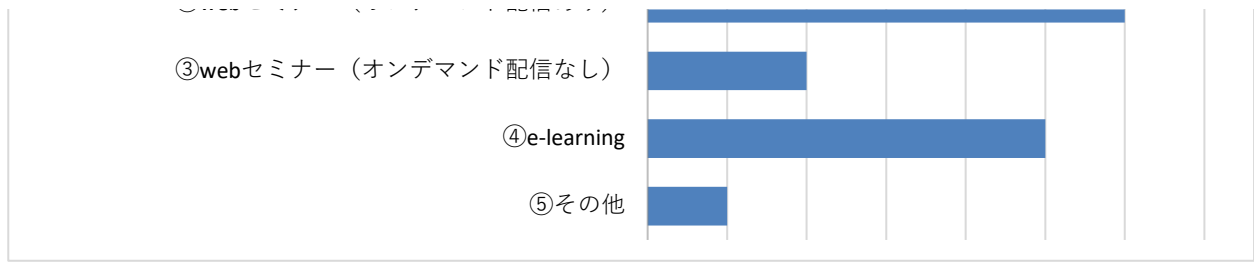


12. 学ぶ機会としてはどのようなものがありますか。(複数回答可)

項目	件数
①現地開催の学術集会でのセミナー	1
②webセミナー(オンデマンド配信あり)	6
③webセミナー(オンデマンド配信なし)	2
④e-learning	5
⑤その他	1

学ぶ機会としていいもの(その他)
遺伝カウンセラー養成校の座学教育と臨床実習

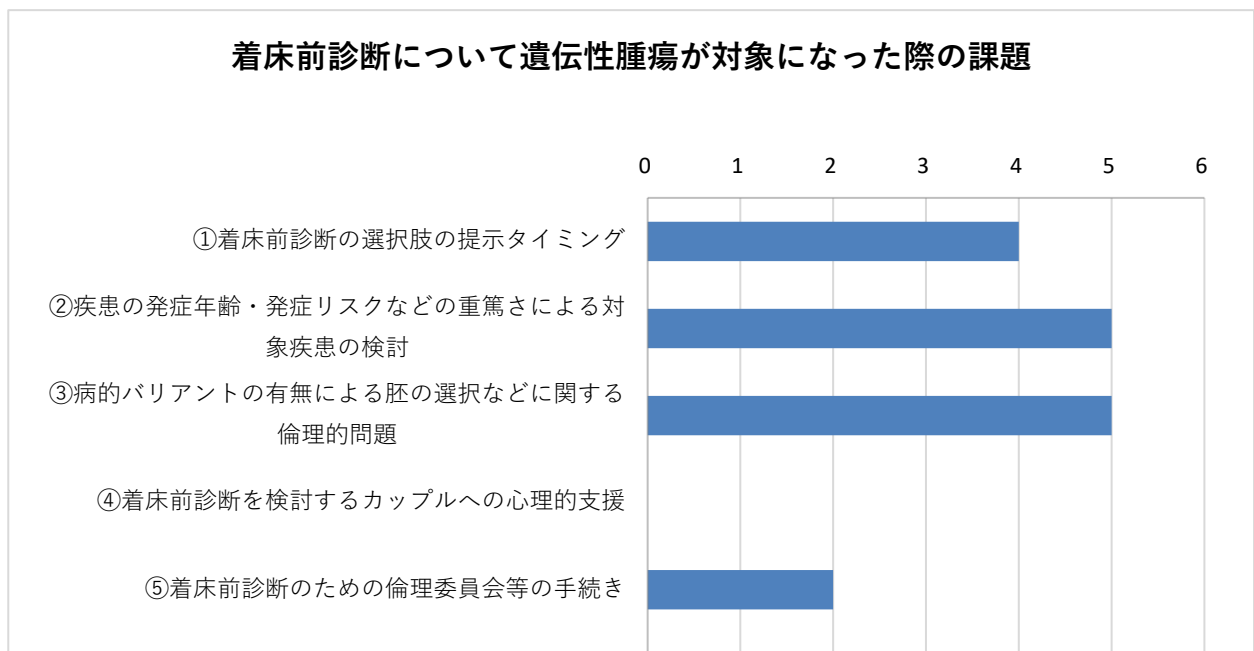




13. 今後、着床前診断について遺伝性腫瘍が対象になった際にかん・生殖医療の分野でどのような課題が上がると思いますか。

項目	件数
①着床前診断の選択肢の提示タイミング	4
②疾患の発症年齢・発症リスクなどの重篤さによる対象疾患の検討	5
③病的バリエーションの有無による胚の選択などに関する倫理的問題	5
④着床前診断を検討するカップルへの心理的支援	0
⑤着床前診断のための倫理委員会等の手続き	2
⑥着床前診断ではわからない遺伝性疾患等への説明	0
⑦その他	4

着床前診断について遺伝性腫瘍が対象になった際の課題(その他)
がん・生殖は時間のない中で検討することが多い中、遺伝のことも、着床前診断のことも考えるには時間が足りない可能性がある。
重篤であるかを誰が判断し、決めていくのか
サーベイランスや遺伝学的検査の保険収載など、まずは当事者に対して社会的な補償や法整備が必要ではないかと考える。
将来育児希望だが、パートナーがいない人への支援



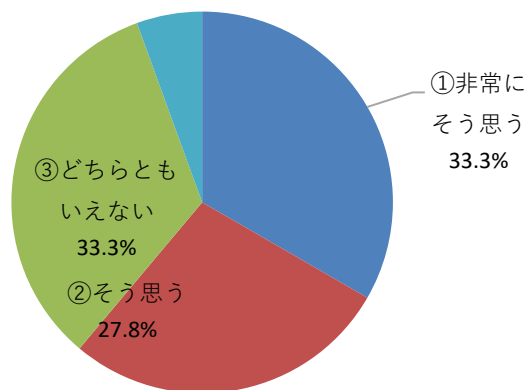
⑥着床前診断ではわからない遺伝性疾患等への説明

⑦その他

14. がん・生殖医療の中で認定遺伝カウンセラー[®]の働きが学会等で定義されていると院内で動きやすいですか。

項目	件数	%
合計	18	100.0%
①非常にそう思う	6	33.3%
②そう思う	5	27.8%
③どちらともいえない	6	33.3%
④そう思わない	0	0.0%
⑤まったく思わない	1	5.6%

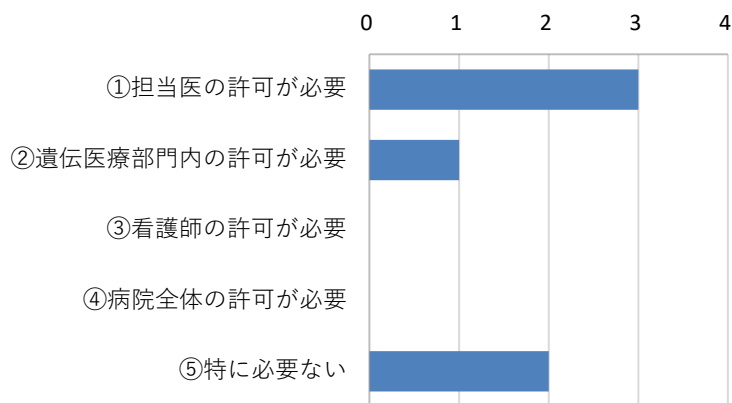
学会等で定義されていると動きやすい



15. がん・生殖医療についての情報提供をするのに院内の誰かの許可が必要です。(複数回答可)

項目	件数
①担当医の許可が必要	3
②遺伝医療部門内の許可が必要	1
③看護師の許可が必要	0
④病院全体の許可が必要	0
⑤特に必要ない	2

情報提供をするのに許可が必要な人



16. がん・生殖医療の情報提供について障壁になっている人はいますか。(複数回答可)

項目	件数
----	----

障壁について障壁になっている人

①医師	1
②看護師	0
③心理士 (臨床心理士、公認心理師)	0
④薬剤師	0
⑤事務職員	0
⑥その他の医療関係者	0
⑦患者さん自身	0
⑧患者さんの家族	0
⑨その他	3
⑩とくにいない	4

情報提供について障壁になっている人(その他)
生殖は生殖でやろうとする医師の姿勢。 AYA世代のがん患者はもれなく遺伝カウンセリングも行うので、連携して行えると良いと思う
わからない

